

Title	十九世紀に於ける欧米の経済発展：ノオルスの遺著を読みて
Sub Title	
Author	高村, 象平
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1932
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.26, No.8 (1932. 8) ,p.1325(121)- 1337(133)
JaLC DOI	10.14991/001.19320801-0121
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19320801-0121">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19320801-0121</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

隨伴現象に外ならず、價值創出の原因たらざること勿論、價值分配の要因でもないのである。たゞ資本制生産の外観が、かゝる隨伴現象が利潤を生むかの如き意識を吾人に生ぜしめるに外ならない。而もこれを單純商品生産について問題とすることは、資本制生産の意識を以つて單純商品生産を類推するものではなからうか(註五五)。

此問題は、單純商品生産に於ける競争と資本制生産に於ける競争の相違、同一産業内部の競争と異産業間の競争との區別の問題と關聯して、ボーム・バヴェルクとヒルファディング、小泉教授と河上、櫛田諸氏との間に戦はされた論争問題であるが筆者はこれを充分に論ずる素養なきを遺憾とする。たゞ、單純商品生産を以つて、價值法則が充分に發展した典型的な姿で現象せる状態と爲すことは甚だしき誤解であつて、この段階は生産價格化のモディフィケーションこそなければ、價值法則は未だ萌芽的、未發展の状態にあり、これが全面的に展開せられるのは資本制的モディフィケーションの下に於いてのみであると云ふことに留意せねばならぬと思ふ。

註五四 V. g. Böhm-Bawerk, a. a. O. S. 354-366.

小泉信三 『價值論と社會主義』 『搾取の理論』 (三田學會雜誌昭和五・六)

『經濟原論』 『餘制價值と利潤』 (三田學會雜誌昭和六・十二)

註五五 『資本制生産方法の基礎の上に於いては、新たに附け加へられた勞働を代表するところの價值をば、勞銀、利潤、及び地代といふ所得諸形態に分割するは、極めて自明のこととなり、此等の所得形態の存在條件が最初から缺如してゐる處にも……この方法が應用されるさいふ有様である。語を換へていへば、何もかも類推に依つて此等の所得諸形態に包攝せしめられるのである。』

(Marx, Das Kapital. Bd. III. 2. S. 412. (B 版) 高島譯 第三卷下四一〇頁)

## 十九世紀に於ける歐米の經濟發展

——ノオルスの遺著を讀みて——

高 村 象 平

リリアン・ノオルスの生前の著「十九世紀の英國に於ける商工業革命」の續卷たる *Economic Development in the Nineteenth Century*; France, Germany, Russia and the United States. 1932. が刊行された。私は以下に於てその大要を紹介したいと思ふ。

十九世紀の經濟發展上に於ける佛獨露米の四大國間に於ける相互作用及びそれ等諸國の一般的經濟發展上の類似と差異とを究明すること、それが本書の目的であるとは、ノオルス自らがその序文に於いて吾々に示すところである。十九世紀の特色は機械と科學とによつて自然支配を始めて可能ならしめた點に存する。各國に於ける産業革命とその社會上の結果とに就いては既に可成り論ぜられてゐるが、機械の世界的影響に關しては描かれること尠く、交通の機械化の進展によつて生じた政治・商業・財政・社會上の變革に就いてはこれまで殆ど重視せられることが無かつた (P. 11.)。この爲に本書は存在理由を持つといふ著者の意圖は、果して貫徹されたものとして吾々の眼に映するか。勿論この書がノオルスの遺した原稿の若干と倫敦大學に於ける講義ノートとより成り、それを纏めた人が著者自身でないといふことを、吾々は考慮に入るべきである。そして恐らくノオルス自ら本書を構成する全部の

原稿を通讀したならば削除したであらうと推測される多くの重複に對して、又は二三の誤謬に對して、吾々は心なき追求を止めるべきであらう。

本書は六篇二十二章より成る。第一編「序論」及び第六篇「國家干渉の増大」を除く各篇は農業革命、工業革命交通の機械化による變革、關稅政策、殖民政策のそれぞれを佛獨露米四國の章に別つて論ずる。素よりその取扱ひは項目により又は國により精粗があるが、この結果は利用し得る資料の關係もあり、又著者の評價に基く重要さの相違からして生じたものと解釋すべきものと思はれる。

ノオルスが總觀として語るところは次の如くである。十九世紀を通じて世界に及ぼすところあつた二大經濟力は英國の發明と佛蘭西の經濟的自由の觀念とである。十八世紀末葉、英國は既に或る程度の人格上の自由を獲得してゐたが、歐大陸諸國は農奴制と封建制との下にあつた。従て前者にあつては諸種の變化は下から生ずるのであり、個人の發意に基くものであつたが、後者にあつては然らずして變化は上からであり、元首の意志によつて變更せられた。然るに佛蘭西革命と共に、及びその後には、事態は一變した。人格自由の獲得は企てられた。革命指導者たるとナポレオンたるを問はずその指揮下に動く佛蘭西軍隊が行くさきさきに於いて、彼等は農奴を解放しギルドを廢し新私有財産制を導入し中世的諸國家を新たに改造し、元首にしてその地位を保持せんとする爲めには、佛蘭西が下から爲し上げたことを上から遂行する即ち人格上の自由を導入するよう圖ることを必要ならしめた。而して中歐並びに東歐の諸國が佛蘭西の侵入及び思想によつて刺戟され、經濟建て直しを行ふ他方に於いて、その進展上必要とされる機械及び鐵道等の經濟的裝備はこれを英國から借り入れ、農業國は工業國に變じ交通機關は機械化し以て大陸内部の異常なる發展と移殖民とは可能となつた。加之舊大陸が新大陸を一大農工業國に變ぜしめたこと及

びこの後者がその食料輸出を以て舊大陸に反作用したことは、一八七〇年以後歐洲の經濟發展の特質を變更せしめるに預つて力あつたところである(pp. 3-5)。

ノオルスが本書に於いて取扱ふものは、次の如き十九世紀の列強國經濟史上の四大特徴である。第一は佛蘭西の影響に基く人格の自由の獲得であり、それは佛獨露の封建的諸國にあつては農奴制の廢止となり、英米の個人主義的諸國にあつては奴隸廢止となつて現はれた。農奴制撤廢は農村に於いては行政上の變革を來し、都市に於いてはギルドの諸制限や居住制限等を廢し、その一般的结果として移住の自由、職業選擇の自由、都市の發達等を齎した。更にこの新たな人格自由は農業生活の改造を、それは耕作方法の改造のみならず土地保有上の變更も生む(pp. 6-9)。而してこのことは當時に於いて農業が歐大陸並びに亞米利加に於ける一大關心事であつたが故に特に重要であつた。ノオルスはこの農業の變革を本書第二篇に於いて論ずる。而して人格の自由と農業革命とに基き生ずる農業上の諸問題は、農奴制諸國(佛獨露)と非農奴制諸國(英米)とにあつては異なる。即ち前者に於いては、人格の自由を獲得した場合、當然個人間の法律的・經濟的關係の變化を必要とする。更に自由な賃労働者の發生は耕作方法を一變せしめ、茲に大陸諸國に於いて農業方法上の變革が生じた。そして集約的耕作への變化の急激であつたことは、いま農奴制を脱した許りの無知な農民にとつて中央又は地方政府による上からの指導を必要とした(pp. 42-3, 45)。非農奴制諸國中、英國は十八世紀以降既に新耕作方法を採用し産額を増大せしめた。合衆國に於いては奴隸解放後、南部の農業は改造されその結果原棉の産額が甚だ増し、更に未開地の開墾、無償地交付による開拓者の吸引等により世界に於ける最大の食料生産者となり、その對歐輸出の増加は全歐洲農業を混亂に陥らしめたのであつた(pp. 44-46)。

これを各列強國に就いて見る。先づノオルスは一七八九年の佛蘭西の状態を述べ(pp. 47-50)、「革命によつて農奴制(東部地方のみ存す)或は封建的貢納はすべて廢され國王・貴族・教會の土地は沒收され賣却されたが、その結果として農民デモクラシーと相並んで新たに土地貴族を生じた」と云ふ。而して一八三〇年以降佛蘭西工業革命が實際その影響を示し始めてから農産物の需要増大と共に耕作方法の改善は漸次行はれたが、それは政府の力を俟つこと大であつた(pp. 54-55)。獨逸に於いてはエルベ河以西の農奴は以東のそれに比して有利な地位にあつたが、佛蘭西の侵入によつて彼等の人格上の解放行はれて後、西獨は主として小農場を以て占められ東歐は大地主即ちユンカアの耕作するところとなつた。變革の第二段階として農民は勞力貢租を貨幣支拂又は土地の引渡しを以て代へるに至り、第三段階として集約耕法の導入を見たが、この爲めには耕地整理、圍墻、共有地兼併を必要とし、これ等に對し政府は努力すると共に交通機關の低廉化と關稅高率化によつて保護を加へるところ尠くなかつた(pp. 60-72)。一八六一年から五年にかけて露西亞の農奴は、アレキサンダ二世の志向に基き貴族委員會によつて解放された。而して西歐に於ける四八年の革命の如きの起ることを避けんとし、約四千萬の解放された農民はすべて土地所有者たるべきものとされたが、六一年の法令により設立された納稅に對する責任を持つ新しい共同組織(ミール)は、その責任に忠實なるあまりやがて移動の自由を妨げるものと化し、それは一九〇六年まで續いた。そして農民の保守性とアルテルへの傳統、無知、資金の缺如等により集約的耕作は容易に行はれぬところであつた(pp. 76-9)。黒奴を使役して棉花栽培を主とする合衆國南部諸州に於いては粗放的耕法が用ゐられ自由貿易を可とするに反し、北部に於いては自作農園が一般であり保護貿易を唱へた。南北戦争はこの兩文明の闘ひである。棉花輸出と食料及び加工品輸入を北部の船舶によつて封鎖せられ、且又その人口に於いて劣る南部の敗北は當然であり、その結果南

部諸州に於ける奴隸廢止は栽培制度を一變せしめ小農園の發生を見、更に北部の經濟狀態と近似するに至つた。その間處女地中央西部に對する移殖民の開拓は鐵道敷設による運賃低下と相俟つて穀物生産を増大せしめそれは歐洲市場に輸出された(pp. 84-95)。

十九世紀に於ける第二の經濟的特徴は英國の影響による工業革命である。一八一五年に於いて、英佛は工業國であつたが、獨逸は純粹農業國であり國內は關稅壁によつて細分され貧國であつた。露西亞は農奴制下の自給自足國であり、合衆國は大西洋岸の煙草、棉花輸出國であつた。十九世紀に於いてこれ等後者三ヶ國の工業化は開始され大體に於いて獨逸は六〇年以降、合衆國は八〇年以降、露西亞は九〇年以降にこれを見ることが出来る。工業上の變化はこれ等諸國に於いて新たに勞働運動を惹き起した。従來のギルドは衰頽して勞働組合が發生し社會改造の新理論が唱えられた。その他方に於いてこの變化の弊害を阻止せんが爲めに工業法規が制定された。上述の「農業上の諸變化が新地方行政と新法律制度とを意味すると同じく、工業上の諸變化は監督官による新管理、新たな工業立法、新教育制度を意味する」。茲にも國家の活動を見るのである(pp. 9-10)。本書第三編は佛獨露米に於ける工業革命の究明にあてられる。その中、佛蘭西に就いては最も詳細に次の五期に分けて論ずる。

(一) 一七八九—一七九九年の佛蘭西革命と經濟崩潰(pp. 110-122) (二) 一八一五年に至るナポレオンの改造、而して云ふ「ナポレオンの軍事行動並びに英國との鬭争は佛蘭西工業の復活なる經濟的動機を有する。大革命前に於いてこの國は大工業國であり英國は第二位にあつた。ナポレオンはこの舊態に戻さうと欲したのである。それが爲めに佛蘭西は機械を採用せねばならなかつたし、ナポレオンは製造品の市場を見出さねばならなかつたのである。」そしてダルムシテッタの言葉を引いて云ふ、「ナポレオンが軍事のみならず經濟にも通曉した參謀本部を有して

ゐたこと、及びあらゆる地點へ該地の經濟状態を知り更に佛蘭西貿易を進展せしむる爲めに外交官と共に通商官を送つたことは、十分廣く知られてゐないところである。更にノオルスは力説する「ナポレオンの經濟政策に就いて殆ど論ぜらるるところなきことは注目すべきである。ルヴフスウル、ダルムシテックア、ブランド、ロッケ等の著書及び論文にこれを見るのみ。大部分の著書は大陸封鎖は論ずるもナポレオンが佛蘭西工業に對して爲した實際偉大な建設的事業には關説しない。ナポレオンの國內並びに國外經濟政策に就いての詳細な研究は甚だ必要である。それによつて多分吾々の有するナポレオンの軍事的目的に就いての全概念は影響を蒙るであらう。例へば西班牙遠征が單なる征服欲に基くか、又は軍服用のメリノ羊毛を獲得し更に佛製品の世界市場を得んとする願望がナポレオンの西班牙政策を決定するに預つて力あつたか否かを、知ることは興味深いに相違ない」(pp. 123-4, and footnote.) 私が敢てこのノオルスの言葉を引用したのは決してその洞察力を讃えんが爲めではない。ノオルスさへもがこの言葉を吐かざるを得なくなつた事情を讀者と共に考へたいが故である。それはまさしく近時獨逸史家の間にビスマックの業績に就いて研究せらるることの急激に増加したことと共に、吾々に深い暗示を與へるところのものであると考へられる。

(三) 一八四八年に至る保護制度の強化と工業革命の進展期、(四)七〇年に至る自由貿易期(pp.134-7)、(五)一九一四年に至る社會立法期、それは又人口増大の遅々たることとアルサス、ロオレエンの喪失とにより佛蘭西工業がその進展を阻げられた時期である(pp. 147-152)。十九世紀初頭單なる地理的表現にすぎなかつた獨逸はその後期に於いては關稅同盟が機縁となりプロイセンを首班として帝國となつたのであるが、先づノオルスは獨逸の地理的環境、十九世紀初頭の經濟状態を述べて「ナ會戰後に於けるプロイセンの六大改革を語り、最後に一八七一年帝

國形成と共に生ずる工業發展を各部門に互つて説く。而してその成功の理據として擧げるものは自然資源、鞏固な政府の外に、保護關稅、技術教育、科學研究、鐵道、運河、廉價にして訓練され能率高き勞働者、最良の家政婦としての獨逸婦人、銀行制度、猶太人、カルテル等等である(pp. 173-4)。露西亞に就いてはクリミア戰爭の終れる一八五六年を境として近世期に入つたとし、この變革過程を農奴解放、鐵道敷設、自然經濟より貨幣經濟への推移の三に求める(pp. 175-8)。合衆國經濟史の二大轉換期の第一は一七八三年乃至一八六五年即ち南北戰爭終末期に至るところの英國からの離反と十三州の經濟的・政治的結合であり、第二は一八一四年に至る世界の強國としての合衆國の勃興である。前者をノオルスは獨立戰爭後、諸州の經濟的結合と保護關稅と公共地居住とを問題にした一八一六年迄と、その後三三年に至る南北兩地方によつて關稅問題の論ぜられた時期と、六五年に至る國民的發展、西漸運動、低關稅時期とに分ち、後者に於いては工業發展と自由競争とは無制限に行はれたが、九〇年に至つてのトラスト取締法と鐵道賃率制定委員會とによる國家干渉の成功を語る(p. 203)。

本書第四編に論ぜられる交通機關の機械化による變革は、ノオルスが以て十九世紀經濟發展の特徴の第三に置くものである。この英國の影響たる變革によつて奥地は開發され、新國家新國際競争者が創り出される。嵩高の財貨・多量の食料品の運送、人の移動、その結果として人種問題、移民問題が生ずる。又世界各地に互つて新投資を可能とし、鐵道自體巨大な投資の對象となる。距離の短縮、世界の相互依存の増大、更に從來束縛せられてゐた自然障礙物に對する支配を可能ならしめ、饑饉に備へての自給策を採る要は無くなり、運河の掘鑿は海岸線の地理的制限を緩和せしめた(pp. 10-11)。佛蘭西に於ける道路建設者ナポレオン、國家管理下の鐵道の發達、海運の國家補助。獨逸に於ける鐵道統一、運河の發達、船舶補助金。露西亞に於ける一八五七年より八一年に至る政府保證による私

企業の鐵道建設、同年以降の國家の鐵道敷設、國家の海運獎勵と補助。合衆國に於いて一八一二年に至る稅道による運輸、五〇年に至る蒸氣船と運河時代、南北戰爭後の鐵道時代、海運業に於いてナポレオン戰爭期並びに四〇年乃至六〇年の好況時代、鋼鐵船への變化の爲めの英國の優越等、簡略に述べられる(pp. 209-36)。

ノオルスが掲げる十九世紀の經濟的特徴の第四は市場並びに原料に對する國民的發展である。一八三〇年より七〇年に互る國民的向上の氣運は、國家の形成と共にその新たな前途を示すものとして國民的經濟政策を意義あるものたらしめた。從て關稅問題は各學派によつて論議せられ國家支配が個人的自由かを決定するよすがとなつた。專制君主治下のマッカランティリズム的政策の實施、これに對する反動としての英國に始まる自由通商は産業に於ける自由放任と共に生じ、その政治的側面には民主政體、新國民性の確立を有した。七〇年の佛蘭西敗北以後この自由主義は國民主義に一轉した。高率の保護關稅と新勞働法規の設定。この強化せる國民主義からして當然新帝國主義の勃興を看取し得る。歐洲の増大せる工業化は茲に海外市場の獲得と原料の新資源の獲得とに熱中せしめた。移植民政策と亞弗利加及び亞細亞の爭奪(pp. 11-3)。本書第五篇の最初の四章は佛獨露米の關稅政策に、第五章は各國の殖民政策の検討にあてられる。

佛蘭西革命の結果佛國の國內關稅壁は廢止されたが、原理上からと戰費調達上からとで革命政府及びナポレオンにより保護貿易は採用され、それは工業のみならず農業も亦四八年に至るまで保護下に置かれた。大陸封鎖の失敗の後ナポレオン三世は大多數のブルジョアの意志に反してその條約締結権を利用して一八六〇年のコブデン條約(特惠國條項を含む)を結果し、これを端緒として歐洲の自由貿易運動の普及。佛蘭西は斯くこの運動の中心點であつたが尙國全體としては保護貿易主義であつた。而して普佛戰爭以後に於いて保護貿易への復歸は農商工業より要

求されその結果として九二年の保護關稅を見る(pp. 240-53)。獨逸關稅史は國庫收入徵集又は産業建設の歴史に止まらず又プロイセンを首班とする國家形成の物語であるとするノオルスは、これを次に四期に分つ。(一)一八一九年維納會議以降三四年の關稅同盟形成まで。(プロイセンが國內に低關稅を採用したのは、市場獲得、密輸入防止不可能、多數の小領土よりなる國に於いて他の大國と同一政策をとることの經濟發展上不可なるを認めたこと、三理由に出づとする。)(二)奧太利加入問題を繞ぐる五三年の條約まで。(三)帝國形成と工業革命の開始に至る七〇年まで。(四)七九年に始まる保護貿易への復歸の原因としてノオルスが擧げるところは、七三年の恐慌、英國の競争に堪へざる鐵業の要求、保護貿易を要求する獨逸工業家中央同盟、米露の交通發達よりする獨逸農産物市場喪失の結果農業家は工業家と合流す、帝國財政上租稅改革の必要、これに對する最良の增收手段としてビスマルクの間接稅採用、彼がその帝國主義的政策實施上黨の支持あることを必要とし自ら保護運動の首班となる(彼自身プロイセンのエンカーであつた)ことである。この保護主義的反動は八〇年代に於ける露、佛、奧の關稅政策に影響するところ多大であつた(pp. 235-270)。ビイター大帝以後、露西亞の商業政策の中心觀念は地金論者のそれであつた。ノオルスはこの國の關稅史を一八〇〇年より二四年に至る禁止關稅時代、五〇年に至る高率保護關稅時代、クリミア戰爭後七七年に至る自由貿易時代、その反動期として九一年並びに一九〇三年の禁止關稅時代の四期に分つ(pp. 275-84)。亞米利加經濟發展史上、關稅は歲入の主要源泉たる地位を占める。從て關稅制度はその時代の保護主義又は自由貿易風潮に従ふのみならず國庫の必要上からも左右されたのであり、爰に於いて財政史と關稅史とは密接な關係に立ち、後者は前者によつて束縛せらるることが多かつた(pp. 288)。然も巨大な資源を藏し國內に大市場を有する合衆國にとつて關稅並びに外國貿易の問題は他の諸國に於けるが如き重要さを有するものではなかつ

たのである。(p. 304)。ノオルスはこの國の關稅史を露西亞のそれと比較し前者に於いては大體に於いて低率から高率への傾向を續けた(勿論中絶期間もあるが)に反し、後者に於いてその上下甚しきを目して、露西亞が經濟上後進國たる事實以外に、この相違の理由の一として政體の相違を擧げて居る(p. 286)。

佛獨露米の殖民政策を概観するに當つて、先づ佛蘭西が殖民に際してとつた同化政策を説き英國はこれと異り地方自主策を採用したことを述べる(p. 307-8)。四八年の革命後佛殖民地に於ける奴隸解放、その爲めの生産基礎の變更による損失、六一年より六六年へかけての自由主義期、その反動として普佛戦争後關稅政策との關聯に於いて更に佛蘭西の國威と文明を普及せんとする動機に結びつく海外市場擴張の欲求と實行、殖民地に於ける關稅政策問題等、殊にこの最後のものは可成り詳細に論ぜられる(p. 315-21)。八十年代に於いて亞弗利加の熱帶各地を獲得した獨逸にとつて殖民地は熱帶産物を支配し得んが爲めの手段であつたこと(p. 323)。露西亞がその増加する人口に對する食料生産地を得んとして東北部東南部への發展、海港更に不凍港、原棉産地獲得の爲めの様々な政略、そしてこの國の擴張は移住による農夫の殖民であつたこと(p. 324-7)。亞米利加に就いては一八九〇年に終る國內開拓の經緯(p. 328-34)、それに續く海外發展、而してその殖民計畫の特色は教育を基礎とした點であつたが、その失敗に鑑みて殖民地内の産業開發策と特惠關稅策を採るに至つたこと(p. 334-5)等が述べられる。

十九世紀に於ける經濟發展をその各産業部門に分つて見るときは以上の如き諸特徴を帯びてゐるが、この世紀を總觀的に經濟發展の見地から時代區分を施すならば、四八年の革命に至るまでと、七〇年までと、その後との三期に分たれるとノオルスは云ふ。第一は既述の如く佛蘭西革命とその後の戦争に基因して西歐並びに中歐に於いて人格自由の確立された期間、そして英佛二國を除く外は機械産業の行はれなかつた期間であるが、その終り近くに於

いては諸國民も戰禍より回復し、自由通商運動は起つて茲に七〇年に至る自由主義時代を生んだ。英佛獨に於ける交通機關の發達、大陸諸國並びに亞米利加に於ける産業革命、露西亞の農奴解放と近代化、然もこの期に於いても佛蘭西は時代の指導者であつた。縱令自由貿易は四十年代の英國によつて遂行され又歐洲に於ける運動は根源的には英國經濟學者の提唱に基くと雖も尙佛蘭西によつてひろめられることが必要であつた。然るに普佛戦争の結果佛蘭西の地位は獨逸によつてとつて代られた。茲に始まる獨逸の影響支配時代は國民的感情、國際争覇の強化を惹き起したが、この新保護政策が舊時のそれと内容を異にすることは云ふ迄もない。更にこの時期は穀物輸出國として工業國としての露米の發展を以て色どられる(pp. 1425)。

ノオルスは云ふ、「各時代の經濟的並びに政治的事象が相互に反作用すること密接なる點を注意すべきである」と。(p. 27)政治運動から云へば以上の第一期は絶對主義の再建とこれに對する絶えざる反抗の時期であり、後者の奏功は國民的復活と憲法上自由の時代を生み、七〇年後に於いては帝國主義の發生、王權の復活、國權の信奉を特色とする。爰に經濟上に於いては商工業に對する國家指導の増大、殖民並びに貿易發展、その反面に於いてサンヂカリズム又はギルド社會主義を生じた。そしてノオルスは附け加へる、「この期(七〇年以降)に於いて政治的並びに經濟的考慮は甚だ密接に織りこまれてゐるから列強國の殆ど一切の政治行動は經濟的動機によつて條件付けられてゐる」と。(p. 28)ではこれ以外の時期に於いてはさうでないといふのであるか。ノオルスの本書に於ける記述を字句通り辿つて行くならば、一八七〇年前に於いて政治行動は中空に浮んでゐた」とは必ずしも斷言出来ぬやうである。が、例へば農奴制廢止が自由思想や國家の爲めにのみ行はれたと云ふところを想起すれば、さうでもないらしくある。從て茲にはからずもノオルスは、七〇年後に屬する獨逸の保護主義への轉換がビスマルクに由來するが

然も彼が大シンディケート工業の壓力の下に行動したのであつたといふルウキンの説明を助けることになつたのである。

扱て最後の第六編に於いてノオルスは、十九世紀の最後の四半期に始まる時期に於ける最も顯著な現象の一は經濟領域に於ける國家干涉の増大であるとし、これを各經濟部門に互つて觀察する。而して獨佛露の農奴制諸國に於いては上からの支配の傾向が傳統的に存したが、十七世紀以降國家干涉の排斥せられた英米の非農奴制國に於いてすら前者と同一方向に進んだ所以は、第一に諸國民の競争の増大であるが、この競争の原因は交通の發達であり、この産業上の變化は原料並びに市場獲得に導き、茲に國家權力の發動を見るに至つたのである。尙又交通機關の改善は中央政府の權力を増大せしめるに預つて力あつた。他方勞働運動も同一方向に進み、社會主義も亦國家干涉を可としたといふのであるが、(p. 342-5)ノオルスは英國の情勢からして一般を推論する傾きあるやうに思はれる。又教育衛生等により軍備擴張により國家の經費の増大は増税となりその結果國家支配の増大となつたのである。(p. 346)。終りにノオルスは云ふ、中世以降政府の行動範圍と個人のそれと奈邊に境すべきかの問題が常に論ぜられて來たのであつたが、茲に見るところの國家が經濟生活に參與することの増大する傾向は益々著しくなり歐洲大戰並びにその後の改造によつて強大化される許りであると。(pp. 348-9)

本書と略、同時代を取扱ひ、ノオルスと同一國籍を有する人の著述として、吾々はクラップムの *Economic Development of France and Germany, 1815-1914*. (1921) を持つ。これは云ふ迄もなく佛獨二國を對象とするものであるが、ノオルスの本書より大冊であり、その内容もノオルスの教科書的敘述に比して優つてゐると私には思はれる。ノオルスの本書に於ける最大の缺點は、各項目の下に各國の狀態が個々別々に敘述され、その相互の關聯に

於いて觀察すること殆ど少きことである。この點ノオルス自らがその序文に云ふところと一致しない。勿論その意圖は有したのであらうが、編纂者の努力も遂にそれを實現するに至らなかつたのである。然しこれはノオルス自身にとつても亦十分責はある。或は列強國として字義通りにのみ佛獨露米を選んだこと、又金融や物價や企業形態等の問題を全然とりあげなかつたことに就いても云ふべき點有りと思はれる。然しそれ等は立場の問題とも考へられ或は意識して省略したとも考へられるが故に茲には言及を差控へよう。そしてそれは著者が七一年の巴里コムニャンに就いて何等言ふところなきことに對しても。



# 最近經濟文獻

## 〔理論經濟學〕

- \* 經濟學原論 古屋美貞著 菊判四五〇頁……………
- \* 經濟科學綱要 大野信三著 菊判六八二頁 敬文堂
- \* 國民經濟組織の缺陷と世界恐慌 ヲグゲマン博士著 小島昌太郎監修邦譯 菊判三五〇頁 雄風館書房
- \* 景氣變動論入門 エ・ヴァーゲマン著 萩原謙造、望月敬之共譯 四六判二七八頁 南北書院
- ドイツ經濟學の近情(中央公論、四七年、七號、昭和七・七、六五—八四頁) 大塚金之助
- ヒルファディングの社會フアシスト的恐慌理論(マルクス主義の旗の下に、改編第二冊、第二一號、七八—一四〇頁)……………
- 辯證法の基本的諸特徴と體系とに就いて—理論經濟學方法論叙説—(三田學會雜誌、二六卷六號、昭和七・七、五一—一〇二頁) 奥田 忠雄
- 前進變動の理論(九州帝大、經濟學研究、二卷一號、昭和七・三、一一—八八頁) 高田 保馬
- 經濟統計の理論的根據 經濟論叢、三五卷一號、昭和七・七、一一—一九頁) 作田 莊一

- 歸算理論と分配論—埃太利學派の分配論に就いての—考察—(三田學會雜誌、二六卷六號、昭和七・六、一〇三—一四一頁)…………… 小池 基之
- ケインズの貨幣理論(九州帝大、經濟學研究、二卷一號、昭和七・三、八九—一三八頁) 高橋 正雄
- 貨幣の主觀價值について(經濟論叢、三五卷一號、昭和七・七、一二三—一三〇頁) 柴田 敬
- ランバートの替理論(九州帝大、經濟學研究、二卷一號、昭和七・七、一三九—一四〇頁) 大森 研造
- G.-H. Ponsquet "Les Bases du Systeme Économique" Paris, 1932. (三田學會雜誌、二六卷七號、昭和七・七、一四六—一五四頁) 小高 泰雄
- \* Bompierre, F.: Économie mathématique. Du principe de lib.ité économique dans l'oeuvre de Cournot et dans celle de l'École de Lausanne (Walters, Pareto), Paris, 1931. 741 p.
- \* Die Wirtschaftstheorie der Gegenwart. Bd. 2. Wien, 1932. 2. Wert, Preis, Produktion, Geld u. Kredit. Dargest. von Albr. r. Atrialon u. a. 413 S.
- \* Majorana, S.: Legge del valore. Grado finale di utilità. Costo di riproduzione. Roma, 1928. 101 p.
- \* Parletanni, A.: Tratté de mécanique économique. Production et

- repartition des richesses. Paris, 1932. 296 p.
- \* Rebord, P.: Précis d'économie politique. T. 2. Paris, 1932. 585 p.
- \* Somary, F.: Die Ursachen der Krise. Tübingen, 1932. 122 S.
- \* Tucker, J.: A selection from his economic and political writings. New York. 1931. 576 p.
- Bann, L. H. and G. B. Thorne: The use of trends in residuals in constructing demand curves. (Jl. of the American Statistic Association. New York. 177, 61-67. March, 1932.)
- Caldwell, R. C.: The social significance of American panics. (Scientific Monthly. New York. 34, 4, 298-310. April, 1932.)
- Clark: The contribution of economics to method in social science. (Essays on research in the social sciences. Washington, 1931)
- Einarsen, J.: Kritische Bemerkungen zur wissenschaftlichen Grundlage der Ausbeutungslehre. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien. 3, 4, 538-551. Mai. 1932)
- Fetter, F. W.: Some neglected aspects of Gresham's Law. (Quarterly J. of Economics. 46, 3, 480-495. May, 1932.)
- Fol, B.: Recenti teorie monetarie del ciclo. (Giornale degli economisti. Roma. 46, 12, 847-873. Dez. 1931)
- Harwood, E. C.: The mechanism of the deflation and recovery phases of the business cycle. (Annalist. 1005, 707-708. 22. 4, 1932.)
- Mainz, K.: Der Mechanismus der Verkehrswirtschaft. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien. 3, 4, 616-632. Mai. 1932.)
- Merian, H.-R.: Die volkswirtschaftliche Preisbildung der Kup-

## 最近經濟文獻

- pelprodukte. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien. 3, 4, 591-615. Mai. 1932.)
- Moissew, M.: L'évolution d'une doctrine: La théorie des crises de Tougou-Baranowsky et la conception moderne des crises économiques. (Revue d'Hist. Écon. et Sociale. 20, 1, 1-43. 1932.)
- Monbett, P.: Konjunkturaufstieg? (Dt. Wirtschafts-Ztg. 29, 15, 329-332. 14. 4. 1932.)
- Selzer, L.: The mobility of capital. (Quarterly J. of Economics. 46, 3, 496-508. M. Y. 1932)
- Shafer, J. E.: Institutional Economics of Prof.essor Commons. (The American Economic Review. 22, 2, 261-263. June. 1932.)
- Souter, R. W.: Land, Capital and Opportunity Cost. (The American Economic Review. 22, 2, 203-207. June. 1932.)
- Stackelberg, H. v.: Grundlagen einer reinen Kostentheorie. 2 Teil. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien 3, 4, 552-590. Mai. 1932.)
- Stuwe, P.: Das Wirtschaften. Zur Grundlegung der Wirtschaftstheorie. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien. 3, 4, 499-507. Mai, 1932.)
- Stuart, C. A. V.: Die Wirkungen von Veränderungen der Kaufkraft des Goldes auf das Wirtschaftsleben. (Zeitschrift f. Nationalökonomie. Wien. 3, 4, 503-537. Mai. 1932.)
- Whitney, C.: Exchange and Price Stabilization. (The American Economic Review. 22, 2, 231-240. June. 1932.)

〔經濟學史〕

- \*社會史的思想史 現代(岩波講座「哲學」社會史的思想史) 本多謙三著 菊判一〇九頁 岩波書店
- \*支那古代經濟思想及制度 增補(田崎仁義著 菊判六四〇頁) 内外出版印刷株式會社
- \*重商政策發達史 竹内謙二著 菊判三八八頁 日本評論社
- \*米國經濟學の史的發展 古屋美貞著 菊判七〇〇頁 内外出版印刷株式會社
- \*植民思想の史的發展(一)(同志社論叢三八號昭和七・六、一一五—一四一頁) 黒田謙一
- \*土地貨幣の研究(二)(國民經濟雜誌五二・六、昭和七・六、五一七—六一頁) 新庄博
- \*ボアキェルベールの「富の本質論」—フイジオクラアト學說の
- 出所の再吟味—(三田學會雜誌、二六卷七號、昭和七・七、八六—一二二頁) 下田博
- \*政治算術附地方算法に就きて(經濟論叢、三五・一、昭和七・七、三七—五一頁) 財部靜治
- \*スミスの歴史的教養と環境—特に彼の後半生に就いて—(經濟論叢、三五・一、昭和七・七、一四一—一四八頁) 竹中靖一
- \*セイの私的及公的消費論(三田學會雜誌、二六卷六號昭和七・六、一一五〇頁) 増井幸雄
- \*制度派經濟學(同志社論叢三八號、昭和七・六、一一三三頁) 五島茂著、ロバート・オウエン著作史(早稻田商學八、二、昭和七・七、二六六—二六八頁) 古屋美貞、北澤新次郎

〔社會經濟史〕

- \*ユール著「一八七〇年以後に於けるソマンネ經濟思想」(早稻田商學八、二、昭和七・七、二六九—二七五頁) 中島正信
- \*Linhart, R.: Die Sozialprinzipien des heiligen Thomus von Aquin. Freiburg, 1932. XIV. 239 S.
- \*Mac Cullock, J. R.: Letters of John Ramsay Mac Cullock to David Ricardo, 1818-1823. Ed. by Jacol H. Hollander. (Reprint of econ. tracts, 4. 1.) Baltimore, 1931. 44 p.
- \*Pergolesi, F.: Giuseppe Toniolo. Fagine di vita e di pensiero. Vic nzi, 1931. 147. p.
- \*Wheeler, J.: A treatise of commerce. Reproduced from the London ed. of 1601. Bibliographical note by George Burton Hothhills. New York, 1932. 125 p. (Trans. Soc. 5. Economics, 2.)
- Bryson, G.: The emergence of the social sciences from moral philosophy (Jl. of Ethics, 42. 3. 304-323. April, 1932.)
- Colasou: Economie stul Brentano 1848 1931. (Bull. Jnst. Econ. 11. 1. 3. 1-3. Jan. März, 1932.)
- May, Louis-Philippe.: Le Mercier de la Riviere, intendant des Iles du Vent (1759-1764) (Revue d'Histoire Economique et Sociale, 20. 1. 44-74 1932.)
- \*經濟的史觀(ハウル・バルト著 山田一郎譯(社會文庫第十二册)四六判二七八頁 日本評論社)

- \*近代資本主義發達史論 下卷 ムブソン著 住谷悅治、阪本勝松澤兼人共譯(改造文庫第一册)菊判四二二頁 改造社
- \*大革命史 第八卷 革命政府 ジョレス著 村松正俊譯 菊判五八六頁 平凡社
- \*ロシアに於ける資本主義の發達(普及版) レーニン著 大山岩雄譯 四六判九六二頁附錄七九頁 南北書院
- \*世界資本主義發達史文獻解題(日本資本主義發達史講座第四部)大塚金之助著 菊判八二頁 岩波書店
- \*獨逸史(列國史叢書) 山中謙二著 四六判三〇五頁 三省堂
- \*經濟史概説 大淵彰三著 四六判 大倉宏文堂
- \*三貨圖彙 草間直方著 瀧本誠一校閱 菊大判判一二四六頁 白東社
- \*日本民事慣例類集 司法省編纂瀧本誠一校閱 菊大判判四一〇頁 白東社
- \*日本商事慣例類集 司法省編纂瀧本誠一校閱 菊大判判一二〇〇頁 白東社
- \*近世地方經濟史料 第六卷 小野武夫編 菊判 白東社
- \*大日本地誌大系 第二一卷 三國地志下 蘆田伊人編 菊判三四五頁 雄山閣
- \*大日本地誌大系 第三一卷 新編會津風土記貳 花見朔巳校訂 菊判三三一頁 雄山閣
- \*明治前期財政經濟史料集成第二卷 大藏省沿革志上卷 大内兵衛土屋喬雄校 菊判五八五頁 改造社
- \*郷土史及郷土地理調査と其實例 大野武男 五十嵐律三共著 四六判二七四頁 大同館

最近經濟文獻

- \*天草島民俗誌 濱田隆一著 四六判 郷土研究會
- \*農奴社會史考 細川組市著 菊判三二〇頁 白東社
- \*徳川理財會要 大藏省編纂 瀧本誠一 菊大判判一二二三頁 白東社
- \*日本小商業史 横井時冬著 四六判二九九頁 白揚社
- \*維新日誌卷一、卷二 橋本博篤 和本 四六倍判 白揚社
- \*日本資本主義發達史序論 森喜一著 菊判三〇二頁 白揚社
- \*交通機關の發達と内外市場の形成(上)(日本資本主義發達史講座第二部)小林良正著 菊判三三三頁 岩波書店
- \*勞働者狀態及び勞働者運動史(下)(日本資本主義發達史講座第二部)小川信一著 菊判七〇頁 岩波書店
- \*戰争史(日本資本主義發達史講座第二部)田中康夫著 菊判四三頁 岩波書店
- \*資本蓄積と經濟恐慌 日本資本主義發達史講座第二部(大塚金之助、渡邊謙吉著 菊判六八頁) 岩波書店
- \*商業史講義(其二)—歴史の時代區劃(東北經濟論叢第四卷、昭和七・七、四九—一〇二頁) 山本六郎
- \*「法律史」と「法制史」の限界、法の歴史の法律學的構成について(社會經濟史學)二卷四號、昭和七・七、五一—八七頁) 飯田忠純
- \*獨逸經濟史概説(一)(經濟史研究、三三號、昭和七・七、六三—七九頁) 柚木重三
- \*中世都市の構成とその進展について—特に手工業發展を契機とせる(經濟評論、一五號、昭和七・六、一七一—四三頁) 小田信士

フランス經濟史概要(十三・完)(經濟史研究、三三號、昭和七、七、八六—九二頁) 宮本 又次  
 中世ヴェニスの外國商館・特に Fondaco del Tedesco に就て(經濟史研究、三三號、昭和七、七、一一—一二頁) 山口正太郎  
 ロシア封建主義、ロシアにおける專制主義の起源および特質について(歴史科學、三號、昭和七、七、五五—七三頁)……………  
 ……エム・エヌ・ボクロフスキー  
 五港開港前に於ける支那外國貿易史の質的檢討(三)(支那、二三卷七號、昭和七、七、五四—六三頁) 野副 重勝  
 戰前帝國主義の成熟過程と支那の分割(歴史科學、三號、昭和七、七、一一—二二頁) 服部 之總  
 支那國民經濟序説(下)——主として官吏資本を中心として(經濟論叢、三四卷六號、昭和七、六、一〇〇—一二三頁)…………… 犬上 末廣  
 唐の告身と王朝の位記(一)(社會經濟史學、二卷四號、昭和七、七、一一—一四頁) 瀧川政次郎  
 莊園制に於ける官符符莊の變質(二・完)——丹波國大山莊の研究(社會經濟史學、二卷四號、昭和七、七、一五—五〇頁)……………  
 ……西岡虎之助  
 近江商人(五)(經濟史研究、三三號、昭和七、七、八〇—八六頁) 菅野和太郎  
 八ヶ岳の入會林野(經濟志林、六卷一號、昭和七、六、二〇—五—五七頁) 小野 武夫  
 江戸時代刊行の古地圖(史學研究、三卷三號、昭和七、三、七七—一一七頁) 栗田 元次  
 江戸大阪間の爲替取組に就いて(經濟史研究、三三號、昭和七、七、一三—二三頁) 松好 貞夫

身延山門前町調査(早稻田商學、八卷二號、昭和七、七、一一—六頁) 平沼 淑郎  
 屋敷免賣買に關する一例(社會經濟史學、二卷四號、昭和七、七、九六—九九頁) 小池安右衛門  
 寛延度讃岐百姓一揆(經濟史研究、三三號、昭和七、七、一〇六—一一〇頁) 黒 正 巖  
 舊福岡藩の藩債(經濟史研究、三三號、昭和七、七、二四—四六頁) 遠藤 正男  
 舊津和野藩に於ける人口調査——徳川時代身分別人口構成の一資料(社會經濟史學、二卷四號、昭和七、七、八八—九五頁)…………… 龜井 茲建  
 ……西宮 鐘造  
 松江藩の人蔘專賣と維新後の處分(經濟論叢、三四卷六號、昭和七、六、一三二—一三四頁) 堀江 保藏  
 近世社會史上に於ける本居宣長(下)(社會、一卷二號、昭和七、七、四九—五七頁) 西宮 鐘造  
 幕末の財政紊亂について(上)——幕末特有の新經費續出を中心として(經濟論叢、三五卷一號、昭和七、七、一〇五—一二二頁)…………… 大山敷太郎  
 ……田村榮太郎  
 明治元年岩越戦争と農民一揆(歴史科學、三號、昭和七、七、四三—五四頁) 濱村正三郎  
 大阪千歳新田の開発(經濟史研究、三三號、昭和七、七、九二—一〇四頁) 本庄榮治郎  
 佐田介石の輔國社同盟帳簿書(經濟史研究、三三號、昭和七、七、一〇四—一〇六頁)……………  
 ……西南戦争後のインフレーション(下)——明治十六十七年經濟恐慌前史(經濟史研究、三三號、昭和七、七、四七—六二頁)…………… 八木澤善次

地租論戰時代——明治中期の諸階級と農村問題(歴史科學、三號、昭和七、七、二四—四二頁) 櫻井 武雄  
 \* Adams, E. D., and J. C. Altmack: A history of the United States. London. 1932. 820 p.  
 \* Belloc, H.: A history of England. Vol. 4. The transformation of England. 1. 1525-1612. N. Y. 1932. 469 p.  
 \* Bradford, F. A.: Banking. N. Y. 1932. 507 p.  
 \* Bradley, A. G.: The United Empire Loyalists: founders of British Canada. London. 1932. 288 p.  
 \* Bruggen, O.: Geschichte der deutschen Handwerkervereine in der Schweiz 1836-1843. Die Wirksamkeit Weitingers, 1841-1843. Bern. 1932. 209 S.  
 \* Chapman, A.: The Tony Trpress; the record of a romantic adventure in business. N. Y. 1932. 319 p.  
 \* Farnam, H. W.: Shakespeare's economists. New Haven. 1931. XV, 187 p.  
 \* Figueroa, V.: Dicionario historico-biografico y bibliografico de Chile. 1800-1930. Vol. 1-4. Santiago de Chile. 1925-1931. 668; 686; 668; 1226 S.  
 \* Fomont, P.: L'insurrection ouvrière de Lyon de 1831. Paris, 1931. 96 p.  
 \* Grabower, R.: Preussens Steuern von und nach den Befreiungskriegen. Berlin. 1932. XXIII, 688 S.  
 \* Herrmann, P.: Die Entstehung des deutschen Nationalvereins und die Gründung seiner Wochenschrift. Leipzig. 1932. 167 S.  
 \* Hyndman, H. M.: Commercial crisis of the nineteenth century.

(Social Science Series.) Cheap ed. London. 1932. 174 p.  
 \* Irish, G. P.: The Company of Scotland: Trading to Africa and the Indies. London. 1932. 343 p.  
 \* Larrut, L.: Bilans. Cent années d'économie mondiale. Paris, 1931.  
 \* Lant, A. C.: The conquest of our western empire. N. Y. 1932. 363 p.  
 \* Lissagaray: Histoire de la commune de Paris. Trad. de R. Martin. Madrid. 1932. 551 p.  
 \* MacCulloch, J. A.: Medieval faith and fable. London. 1932. 345 p.  
 \* Mackisack, M.: The parliamentary representation of the English boroughs during the middle ages. London. 1932.  
 \* Monheim, C.: Notre histoire coloniale. L'affaire du Rio-Nunez 1848-1858. Louvain. 1931. 43 p.  
 \* Morandi, R.: Storia della grande industria in Italia. Bari. 1931. 300 p.  
 \* Mottram, R. H.: A history of financial speculation. (St. James's Lib.) Cheap ed. London. 1931. 324 p.  
 \* Mowat, R. B.: England in the eighteenth century. London. 1932. 276 p.  
 \* Münch, H.: Adolph v. Hansemann. München. 1932. XIII, 520 S.  
 \* Poggi, F.: Le guerre civili di Genova in relazione con un documento economicofinanziario dell'anno 1576. Genova. 1930. XII, 176 p.  
 \* Pirenne, H.: Histoire de Belgique. 7. De la révolution de

1830 à la guerre de 1914. Tauxelles, 1932. XII, 416 p.  
 \* Raubold, G.: Die bayerische I andtagsberichterstattung vom Beginn des Verfassungslebens bis 1850. Ein Beitr. zur Geschichte Bayerns u. d. Presse. München. 1931. VII, 118 S.  
 \* Simkins, F. B., and R. H. Woody: South Carolina during Reconstruction. Chap. I Hill, N. C., 1932. 624 p.  
 \* Sprater, F.: Pfälzische Eisenbahnenfunde und die vorund frühgeschichtliche Eisenverhüttung in der Pfalz. München. 1932.  
 \* Stoll, W. T.: Silber strike, 1883: The true story of silver mining in the Coeur d'Alenes as told to H. W. Whicker. Boston, 1932. 281 p.  
 \* Storz, W.: Die Anfänge der Zeitungskunde; Die dt. Literatur d. 17. u. 18. Jh. über d. gedruckten, periodischen Zeitungen. Halle. 1931. 116 S.  
 \* Thomson, M. A.: The Secretaries of State 1681-1782. London. 1932. 206 p.  
 \* Weinhauer, A.: Der Reichsstadt Kempten Kriegslasten und deren Aufbringung während des Dreissigjährigen Krieges. Kempten. 1931. 131 S.  
 \* Wertebaker, T. J.: Norfolk. Historic southern port Durham. 1931. IX, 378 p.  
 \* Zimmern, A.: The Greek Commonwealth. Politics and economics in 5. century Athens. 5. ed., rev. London. 1932. 471 p.  
 Bondon's P.-M.: Les Verreries Nivernaise et Orléanaise au XVIIIe siècle: Jean Castellan et Bernard Perrot, 1647-1709. (Revue d'Hist. Econ. et Sociale. 20, 1, 75-95. 1932.)

Hlonjo, E.: The population and its problems in the Tokugawa era, 1721-1846. (Bull. de l'Inst. int. de statist. Tokio. 25, 2, 60-82. 1931.)  
 Powicke, F. M.: The recent trend of medieval historical studies. 1. the collection and criticism of original texts. (Hist. 17, 65. 1-8. Apr. 1932.)  
 See, H.: Remarques sur le rôle du capitalisme financier a l'époque du "Hochkapitalismus" (1) (Revue d'Hist. Econ. et Sociale. 20. 1. 96-108. 1932.)  
 Stephenson, C.: the recent trend of medieval historical studies. 2. Investigation of the origins of towns. (Hist. 17, 65. 8-14. Apr. 1932.)  
 Wittfogel, K. A.: Die natürlichen Ursachen der Wirtschaftsgeschichte. (Archiv. f. Sozialwiss. u. Sozialpol. 67, 4, 466-492 Juni. 1932.)

〔經濟政策〕

\* 日本統制經濟論 井關孝雄著 四六判二二二頁 高瀬 書房  
 \* 非常時の經濟政策 河合良成著 四六判 一四五頁.....千倉 書房  
 \* 窮乏日本の新興政策 親泊康永著 四六判三〇八頁.....新興社  
 \* 經濟國難の非常對策 朝日新聞社經濟部編 四六判 一一一頁  
 \* 產業刷新の理論と實際 宇原義豐 菊判 マネジメント社  
 \* 農村非常對策 横尾惣三郎著 四六判 八七頁 千倉 書房

\* 農村對策米專賣の可否 菊判七六頁 財政經濟新報社  
 \* 農村自救論 權藤成郷著 四六判 二四三頁 文藝春秋社  
 \* 如何にして農村を救ふ可きか 大毎東日主催 農村應急對策座談會 四六判一二〇頁 東京日日新聞社經濟部編  
 經濟統制の理論的根拠 (經濟論叢, 三五卷一號, 昭和七・七, 一一九頁) 作田 莊一  
 シェパード・ヒー・クラウ「ファシストの經濟施設と理論の進化」, 早稻田商學, 八卷二號, 昭和七・七, 一六五—一八二頁) :  
 .....北澤新次郎  
 恐慌對策としての計畫經濟 (世界經濟, 一三號, 昭和七・七, 三六—五四頁) 法政大學世界經濟研究所  
 恐慌打開策としての「購買力補給案」, 經濟論叢, 三五卷一號, 昭和七・七, 五二—七四頁) 谷口 吉彦  
 米國の通貨政策 (二) (銀行論叢, 一九卷一號, 昭和七・七, 三二—八頁) 大木 占城  
 國際商業政策の思想と其現狀 (國民經濟雜誌, 五三卷一號, 昭和七・七, 九〇—一〇〇頁) 大泉 行雄  
 亞米利加に於けるインフレーション政策 經濟學論集, 二卷六號, 昭和七・六, 一三八—一五六頁) 荒木光太郎  
 スノーデンの自由貿易政策 (國民經濟雜誌, 五三卷一號, 昭和七・七, 七三—八九頁) 竹原虎之助  
 産業土木五ヶ年計畫の展望 (自治研究, 八卷七號, 昭和七・七, 四一—四八頁) 田中 好  
 サヴェート聯邦第二次五箇年計畫の準備 (世界の勞働, 九卷七號, 昭和七・七, 一四—二二頁) 國際勞働局  
 ソヴェエトロシアの農業協同組合 (中) (社會政策時報, 一四二號, 昭和七・七, 一五—二七頁) 澤村 康

農村危機非常對策 (財政經濟時報, 一九卷七號, 昭和七・七, 一六—二七頁) 横尾惣三郎  
 モラトリアムは農村救済主か (財政經濟時報, 一九卷七號, 昭和七・七, 二八—三二頁) 岡田 温  
 現下農村の危機對策 (改造, 一四卷七號, 昭和七・七, 七三—七五頁) 河西一太郎  
 米問題は專賣の要なし (財政經濟時報, 一九卷七號, 昭和七・七, 三六—四一頁) 稻見 泰治  
 農村經濟と自己反省 (社會政策時報, 一四二號, 昭和七・七, 一四頁) 小野 武夫  
 蠶業合理化に於ける特約組合の意義 (社會政策時報, 一四二號, 昭和七・七, 二八—四二頁) 久保山千里  
 配給機關としての農業協同組合 (明大商學論叢, 一二卷三號, 昭和七・六, 五九—七三頁) 林 久吉  
 農村教育に就て (經濟法律論叢, 三卷一號, 昭和七・七, 一八一—一八八頁) 瀧本 誠一  
 農家の負債整理 (經濟時報, 四卷四號, 昭和七・七, 一一—二〇頁) 河田 嗣郎  
 農産物の價格調節問題 (農業經濟研究, 八卷三號, 昭和七・七, 一一—三二頁) 小平 權一  
 農業生産要素の沈下固定性と農産物價格統制の必要 (農業經濟研究, 八卷三號, 昭和七・七, 三三—五三頁) 大槻 正男  
 價格の運行より見たる價格統制問題 (農業經濟研究, 八卷三號, 昭和七・七, 五四—六九頁) 木村 修三  
 標準蠶絲價の探究 (農業經濟研究, 八卷三號, 昭和七・七, 七〇—九七頁) .....野崎 清  
 蔬菜果實取引の趨勢と其の價格統制問題 (農業經濟研究, 八卷

三號、昭和七・七、九八一—三三七頁) 勝賀瀨 實  
 北海道農産物價格論(農業經濟研究、八卷三號、昭和七・七、一三八—一五六頁) 渡邊 侃  
 農産物價格統制の經濟的歸結(農業經濟研究、八卷一號、昭和七・七、一五七—一七七頁) 東畑 精一  
 滿洲經濟論(中央公論、四七年七號、昭和七・七、三四—六四頁) 矢内原忠雄  
 滿洲の森林と移民問題(支那、二三卷七號、昭和七・七、四六—五三頁) 三浦伊八郎  
 米國の對滿洲政策批判(支那、二三卷七號、昭和七・七、五一—六頁) 稻原 勝治  
 滿洲國の成立と其關稅問題(早稻田商學、八卷二號、昭和七・七、三五—六二頁) 小林 行昌  
 滿洲國關稅限度に就て(經濟法律論叢、三卷一號、昭和七・七、一一—一四頁) 小島 精一  
 滿洲移民開發資金の調達策(東洋、三五年七號、昭和七・七、一一—二二頁) 松岡 正男  
 交通と貨幣關係より見たる滿洲移民問題(東洋、三五年七號、昭和七・七、二—一〇頁) 田中 忠夫  
 支那製絲業の危機と其對策(東亞、五卷七號、昭和七・七、八六—九五頁) 島田 孝一  
 自動車運送の安全性の向上に就て(交通研究、一〇輯、昭和七・七、一一—一九頁) 寺島 成信  
 航空界の發展と列國航空政策(交通研究、一〇輯、昭和七・七、五六—七九頁) 瓜生 卓爾  
 近年に於ける國有鐵道の減收につきつて(交通研究、一〇輯、昭和七・七、九一—一一〇頁) 瓜生 卓爾  
 \*Ausfuhr von landwirtschaftlichen Erzeugnissen der Ud.S.R.

Moskau, 398 S.  
 \*Baker, C. W.: Pathways back to prosperity. New York, 1932. 370 p.  
 \*Cantuti, Castelletti, F.: L'organizzazione del commercio estero in Italia. Brescia, 1931. 24 p.  
 \*Chicot, E. C.: Crop rotations and tillage methods. Washington, 1931. 164 S.  
 \*Coppola, E.: La difesa dell'ordine economico. Napoli, 1931. 31 p.  
 \*Dalla Volta, R.: Scritti vari di economia e finanza. Firenze, 1931. 624 p.  
 \*Fetter, F.: The masquerade of monopoly. New York, 1931. XII, 464 p.  
 \*Fordham, M.: Britain's trade and agriculture: their recent evolution and future development. London, 1932. 224 p.  
 \*Fuchs, W.: Die Randsiedlung als Teillösung für den Wiederaufbau Deutschlands. Frankfurt a. M., 1931. 26 S.  
 \*Gini, C.: Le basi scientifiche della politica della popolazione. Catania, 1931. VI, 342 p.  
 \*Girault, A.: Principes de colonisation et de l'ég's législation coloniale. 5. éd. rev. et augmentée. Paris, 1931. XI, 478 p.  
 \*Gräbner, G.: Standortfragen in der Holzg'inlustrie. Berlin, 1932. 55 S.  
 \*Grimes, W. E. und E. L. Holton: Modern agriculture; based on essentials of the new agriculture. Boston, 1932. 639 p.  
 \*Güérin, P.: La concurrence de l'automobile et des chemins de fer. Paris, 1931. 183 p.

\*Gutmann, V.: Industriepolitik. Kritik d. interventionist u. Begründung einer organ. Auffassung. Jena, 1932. VIII, 140 S.  
 \*Hansch, J.: Die Neugründung des wirtschaftlichen und sozialen Liberalismus. Sendenhorst, 1932. X, 71 S.  
 \*Henden, A.: Standortsuntersuchung der Segewerksindustrie in der Grafschaft Glatz. Neustadt Oberschl. 1932. 43 S.  
 \*Heilgenthal, R. Staat und Siedlung. Karlsruhe, 1932. 18 S.  
 \*Hofgkin, H. T.: Seeing ourselves through Russia. A book for private and group study. New York, 1932. 117 p.  
 \*Hornann, R. u. Wilhelm Farth: Siedlungsbau und Selbsthilfe. Hberswalde-Berlin, 1932. VIII, 168 S.  
 \*Jakowlew, J. A.: Kollektivisierungsbewegung und der Aufschwung der Landwirtschaft. Moskau, 1931. 84 S.  
 \*Jansy, N.: Die Standardisierung von Getreide. 1932. 151 S.  
 \*Javits, B. A.: Business and the public interest; trade associations, the anti-trust laws and industrial planning. New York, 1932. 323 p.  
 \*Jean, R.: Confédération générale des paysans travailleurs. Mémoires, défendéz-vous. Paris, 1932. 24 p.  
 \*Das Kartellproblem. Beiträge zur Theorie u. Praxis. Hrsg. von Emil Lederer. T. 3. München, 1932. 80 S.  
 \*Klissmann, G.: Die internationale Handelskammer und Zwischenstaatliche Transport- u. Verkehrsprobleme. Berlin, 1932. VI, 127 S.  
 \*Köhler, E.: Die Beziehung zwischen ertragsten Mengen und Preisen landwirtschaftlicher Erzeugnisse. Greussen, 1931. 56 S.

\*L'Emballage et l'exportation. I ausanne, 1931. 35 p.  
 \*Leacock, S.: Economic prosperity in the British Empire. Cheap ed. London, 1932. 253 p.  
 \*Mandel, H.: La crise. Ses causes. Ses remèdes. Strasbourg, 1932. 37 p.  
 \*Mathes, W.: Die Verbandsbildung im Deutschen Eisenhandel. Essen, 1931. IV, 109 S.  
 \*Nusselt, K.: Die volkswirtschaftliche Bedeutung der deutschen Finnenhäfen. Würzburg, 1931. 144 S.  
 \*Osborn, C.: Oil economics. The application of economic facts and principles to the problem of management and investment in the petroleum industry. London, 1932. 412 p.  
 \*Ponsonby, G. J.: London's passenger transport problem. London, 1932. 106 p.  
 \*Raschid, S.: Die türkische Landwirtschaft als Grundlage der türkischen Volkswirtschaft. Berlin, 1932. 202 S.  
 \*Report of a joint Committee on agricultural policy with special reference to British manufacturing industry and imperial cooperation. London, 1931. 52 p.  
 \*Repony, D.: When and how we will get out of this depression; common sense economics. Clifton 1932. 61 p.  
 \*Salter, A. Sir: Recovery. The second effort. London, 1932. XVI, 306 p.  
 \*Schröder, P.: Die Überwindung der Wirtschaftskrise durch den Plankapitalismus. Jena, 1932. 180 S.  
 \*Seligman, E. R. A. and R. A. Lowe: Price cutting and price maintenance, a study in Economics. New York, 1932. 553

p.  
 \*Simon, A.: Die kommunistische Kinderbewegung im Fünfjahrplan. Lokrowsk, 1931. 60 S.  
 \*Slicker, S. H.: The limitations of planning. Chicago, 1932. 12 p.  
 \*Strakosch, S.: Wirtschaftlichkeit im höherem Sinne. Wien, 1932. 8 S.  
 \*Svenson, W.: Ekonomikontrollen. Förverkligad genom analytisk redovisning. De grundläggande principerna. Stockholm, 1932. 40, 5 S.  
 \*U. S. Tariff Commission. United States-Philippine Tariff and trade relations. Washington, 1931. 143 p.  
 \*Wajner, N.: La technique moderne du crédit à l'exportation. 2. éd. rev. et complétée. Paris, 1931. 256 p.  
 Baade, F.: Die Zukunft der landwirtschaftlichen Siedlung (Die Gesellschaft, 9. 6. 488-509 Juni, 1932.)  
 Pohnmann, W. M.: Die Zinsregelungen seit dem 8. Dezember, 1931. (Zeitschrift f. Handelswiss. Forschung. 24. 5. 262-276 1932.)  
 Glasgow, G.: Will prosperity come again? (The Fortnightly Review. New Series-786. 681-690 June, 1932.)  
 König, E.: Das Verhältnis der öffentlichen Körperschaften zu gewerkschaftlichen Aktiengesellschaften (Zeitschrift f. Betriebswirtschaft, 9. 6. 378-384 1932.)  
 Newman, E. W. P.: Ottawa and Irish foreign trade (The Nineteenth Century and after 1877-1932. 111-664. 641-656 June, 1932.)

Orton, W. Sir: Tariffs and the movement of goods (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. May, 1932. 27-32)  
 Peterson, S.: If glw way policy on a commercial basis (Quarterly Jl. of Economics. 46. 3. May, 417-443 1932.)  
 Schneider, F.: The economic position of the raw material industries (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. 20-26 May, 1932.)  
 Schwarz, S.: Fünfjahrplan und Sozialismus (Die Gesellschaft, 9. 6. 525-547 Juni, 1932.)  
 Shepard, W. J.: Economic planning under our laws (Current History. 36. 3. June, 271-280 1932.)  
 Stamp, F. Sir: Control or fate in economic affairs (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. 123-140 May, 1932.)  
 Walcott, F. C.: How much can the government help? (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. 115-122 May, 1932.)  
 Whittlesy, C. R.: Foreign investment and the terms of trade (Quarterly Jl. of Economics. 46. 3. 444-464 May, 1932.)  
 Yamamoto, J.: A five year plan for Japan (Contemporary Japan. 1-1. 45-51 June, 1932.)

【金融】

\*アメリカ株式恐慌と其の後の發展 アービング・フィッシャー著 金原賢之助・小高泰雄譯 四六判三二〇頁……

……同 文 館  
 \*期くして景氣を直せ 本郷桂著 四六判 貨幣改革既成同盟會  
 \*爲替相場の騰落 岡顯雄著 四六判 先進社  
 \*景氣轉換論 ベーシユ著 加藤直士譯 四六判 千倉書房  
 \*投資信託論(證券投資會社の研究) 江口行雄著 森山書店  
 \*インフレーションの理論と實際 石橋湛山著 四六判……  
 ……東京 書房  
 不動産資金化問題(經濟學論叢, 二卷六號, 昭和七・六・三一—一三七頁) 牧野 輝智  
 金融機關としての預金銀行の地位(經濟論叢, 三五卷一號, 昭和七・七・一三〇—一四一頁) 中谷 實  
 銀行標準經費の計算(銀行研究, 二三卷一號, 昭和七・七, 卷末一一七四頁) 銀行研究社  
 日本勸業銀行論(經濟評論, 一五號, 昭和七・五, 一一一—一六頁)……  
 預金利子算出法に就いて(銀行研究, 二三卷一號, 昭和七・七, 八七一—一〇四頁) 小坂 珠城  
 銀行事務機械化の可能性(四・完)(銀行研究, 二三卷一號, 昭和七・七・六七—七四頁) 佐藤 正雄  
 貸出取引先と預金殘高の關係(銀行研究, 二三卷二號, 昭和七・七・七五—八七頁) 藤城 敬二  
 銀行堅實化の一つの錯覺有價證券評價切下に就て(銀行研究, 二三卷一號, 二八一—三四頁) 岡田 純夫  
 銀行職員(明大商學論叢, 一二卷三號, 昭和七・六・七四—八二頁) 鐘ヶ江 甚平  
 有價證券信託約款集(商學論叢, 五號, 昭和七・六, 一八一—二三三頁) 中根不羈雄

日銀發券制度の改正に就いて(銀行通信錄, 九三卷五五七號, 八〇九—八二二頁) 青木 得三  
 景氣循環と銀行信用(二) (銀行通信錄, 九三卷五五七號, 七九七—八〇八頁) 小林 新  
 根抵當期間の延長に就て(判例銀行, 七卷六號, 昭和七・六, 一八頁) 銀行研究社  
 有價證券擔保の諸問題(銀行判例, 七卷六號, 昭和七・六, 二〇—三〇頁) 妹尾 一雄  
 保險の社會性と團體性(法學協會雜誌, 五〇卷七號, 昭和七・七, 二七—三三頁) 田中耕太郎  
 貿易貨物と海上保險(早稻田商學, 八卷二號, 昭和七・七, 六三—八〇頁) 倉田 庸太  
 事業保險(二)(早稻田商學, 二卷二號, 昭和七・七, 二一—三二—四四頁) 末高 信  
 戰爭保險の危險に就いて(生保會社協會々報, 二二卷二號, 昭和七・六, 六九—八〇頁) 均田 章  
 生命保險と航空保險(生保會社協會々報, 二二卷二號, 昭和七・六, 三七—五四頁) 藤川 博  
 各國生保會社投資の傾向(生保會社協會々報, 二二卷二號, 昭和七・六, 五五—六九頁) 西山 雄一  
 生命再保險論(後編)(生保會社協會々報, 二二卷二號, 昭和七・六, 七一—三六頁) 磯野 正登  
 生命保險會社決算期の公社債評價(生保會社協會々報, 二二卷二號, 昭和七・六, 一一—一六頁) 森 莊三郎  
 インフレーションに就て(土木事業協會々報, 四二卷, 昭和七・五, 一一—三七頁) 勝田 貞次  
 数量説の發展に就いて(經濟論叢, 三五卷一號, 昭和七・七,

- 八八一—一〇四頁) 松岡 孝兒  
不況對策と貨幣數量説(銀行研究,二三卷二號,三五—五五頁)  
財界救済の金融的諸策を評す(銀行研究,二三卷一號,一一—  
七頁) 春日井 薫  
矛盾に陥れる米國の金融政策(東洋經濟新報,一五〇六號,一  
三一—一四頁) 東洋經濟新報社  
日本農業恐慌の解剖(東洋經濟新報,一五〇五號,一一—一四七  
頁) 東洋經濟新報社  
短期清算取引の解剖と其の批判(三田學會雜誌,一六卷七號,  
昭和七・七・一一—三八頁) 向井 鹿松  
濟生眼より觀たる信託(信託協會々報,六卷三號,昭和七・六・  
一三一—一三三頁) 增島六一郎  
生存信託の利益(信託協會々報,六卷三號,昭和七・六・二四—  
三〇頁) 信託協會  
世界の銀貿易(經濟月報,四卷六號,昭和七・六・一一—一五頁)..  
我國信託會社の金融的職能を論ず(一)(中央銀行會通信錄,三  
五一號,一一—一六頁) 西田白之助  
正貨の消長に關する所感(中央銀行會通信錄,三五一號,六一  
—一一頁) 木村清四郎  
\* Aono, J.: Japan after gold bar removal. Kobe, 1931. 114 S.  
\* Atlas, Z. V.: Geld und Kredit. J. 1. 2. Moskau 1930. 459 S.  
\* Bank management (American Inst. of Banking.) N. Y. 1931.  
544 S.  
\* Bann, M. J.: Währungsprojekte und warum? Berlin, 1932. 55  
S.
- \* Barros, B.: Caja de credits hipotecario, 1855-1930. Santiago,  
1932. 240 S.  
\* Braun, H.: Lebensversicherung. Berlin, 1932. 151. S.  
\* Cowee, G.: Common Stock and next bull market. Boston, 1931.  
138 S.  
\* Crespolani, R.: Il risparmio assicurativo. Un nuovo sistema di  
deposito a risparmio e di assicurazione sulla vita umana. Mo-  
dena, 1930. 110 S.  
\* Cross, I. B.: Money and Banking. N. Y. 1931. 544 S.  
\* Cunee, J. A.: Banking and currency in Argentina. Lincoln,  
1932. 28 S.  
\* Domany, J.: Die Zukunft der Goldwährung. Berlin, 1932. 32  
S.  
\* Domeg, R.: Sparkassenwandlungen. Grundzüge einer Wirtschaft-  
sgesch. d. dt. u. osterr. Sparkassen. Wien, 1930. 154 S.  
\* Galli, R.: Il saggio di sconto. Studio sulla economia e sulla  
politica del credito. Firenze. 1931. 395 S.  
\* Harter, G.: Währung und Notenbankwesen Persiens unter bes.  
Berücks der neuesten Zeit. Würzburg, 1931. 108 S.  
\* Jannott, K.: Wirtschaftskrise und Versicherungswesen. Jena.  
1932. 40 S.  
\* Junk, F.: Aufbau und Bedeutung der Werksparkassen. Berlin,  
1930. 101 S.  
\* Kisch, W.: Das Verfahren zur Ermittlung des Versicherungs-  
schaden. Potsdam. 1932. 112 S.  
\* Manes, A.: Versicherungswesen System d. Versicherungswirt-  
schaft. 5., völlig veränd. u. erw. Aufl. in 3 Bänden mit Einschl.

- luss d. Sozialversicherung. Bd. 3. Leipzig 1932. 356 S.  
\* Manes, A.: Grunzüge des Versicherungswesens. 5. veränd. u.  
erw. Aufl. Leipzig. 1932. 204 S.  
\* March, J.: Les grands marches financiers. Londres, New York,  
Paris, Berlin. Leurs solidarités internationales. Paris, 1932.  
216 S.  
\* Musfeld, R.: Was ist Handelsgebrauch im Bank- und Börsen-  
wesen? Eine Samml anhl. Gutachten. Berlin, 1932. 150 S.  
\* Mitterbach, K.: Denkschrift über die Möglichkeit, durch eine  
sinnvolle Erneuerung an unserem Geldwesen—bei verstärkten  
dem Ausbau der Goldwährungsgrundlage—die volle Wieder-  
belebung unseres Wirtschaftsgebietes heranzuführen. Wien,  
1932. 32 S.  
\* Olet, P.: Banque mondiale et le plan économique mondial.  
Les conditions et les consequences de la crise. Bruxelles,  
1932. 40 S.  
\* Paret, L. V.: Dinero, rentas y paro. Madrid, 1931. 288 S.  
\* Prion, W.: Ist die Börsen reformbedürftig? Eine unters. Berlin,  
1932. 54 S.  
\* Schicht, H.: La stabilizzazione del marco. Trad. et introd. di  
Stanislau G. Schalfati. Milano, 1931. 270 S.  
\* Schlegelberger, F.: Die Zinssenkung nach der Verordnung des  
Reichspräsidenten vom 8. Dezember 1931. mit einer Einf. u.  
Kurz-n Erl. 4. Aufl. mit d. Durchführungsvorordnungen über  
d. Zinssenkung auf d. Kapital- u. Geldmarkt u. d. Verein-  
barungen d. Spitzenverbände d. Kreditinstitute über Geld-  
märkten. Berlin, 1932. 99 S.
- \* Stoddord, T. L.: Europe and our money. N. Y. 1932. 225 S.  
\* Servat's, E. et E. Beandoin: Banques d'emission. Banque de  
France. Banques coloniales. Banque étrangères. 6 ed. Paris,  
1932, 223 S.  
\* Sykes, E.: Banking and currency. 7 ed. with ch. on the Break-  
down of the gold standard. Lond. 1932. 322 S.  
\* Wirkungen und Ursachen des hohen Zinsflusses in Deutschland.  
Hrsg. von Karl Diehl, Erwin v. Beckerath. Jena, 1932. 928  
S.  
Aischul, F.: The need for a new approach to an old problem.  
(Proceeding of the academy of Politi. Science 15-1. 53-65.  
Aay 1932.)  
Fraser, L. M.: Significance of Stock Exchange boom. (The  
American Econ. Review. 22-2. 193-202 Jun. 1932.)  
Glasgow, G.: Will prosperity come again? (Fortnightly Rev.  
36. 681-690 Jun. 1932)  
Hardy, C. O., Lounsbury, R. H.: Velocity concepts—A criti-  
cism and a Reply. (Quart. Jl. of Eco. XL 6-3. 566-575.  
May 1932.)  
Harris, S. E.: Banking and Currency Legislation (Quart. Jl. of  
Eco. XL 6-3. 546-557. May 1932.)  
Jordan, P.: Lloyd's. (Fortnightly Rev. 36. p. 713-727. Jun.  
1932.)  
Kiep, O. C.: The basis of German credit. (Proceedings of the  
Academy of politi. Science 15-1. p. 84-93. May. 1932.)  
Labschille, F. M.: Credit for export of automobiles. (The Ame-  
rican Eco. Review. 22-2. 208-218. Jun. 1932.)

Marschak, J. u. W. Lederer; Grossenordnungen des deutschen Geldsystems (Archiv f. Sozialwiss. u. Sozialpol. 67-4. 385-402. Jun. 1932.)

Kogens, F. II.: Foreign credit and international trade. (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 6-12. May. 1932.)

Selzer, L.: The mobility of capital (Quart. J. of Eco. XL 6-3. 496-508. May. 1932.)

Whitesey, C. R.: Foreign investment and the terms of Trade. (Quart. J. of Eco. XL 6-3. 444-464. May. 1932.)

Williams, F. II.: The effect of currency depreciation on international trade. (Proceeding of the Academy of Politi. Science. 15-1. 13-20. May. 1932.)

Yamamoto, S.: Economic depression and the gold embargo. (Contemporary Japan. 1-1. p. 52-62. Jun. 1932.)

〔世界經濟〕

\* 國際條約集 立作太郎著 四六判 外交時報社

\* 恐慌と世界經濟 慶應義塾金融研究會編 菊判四九頁……丸善株式會社

……丸善株式會社

イギリス・アメリカ・フランス事件—世界恐慌と世界コンツェルン—(經濟學論集、二卷六號、昭和七・六、六九—一二〇頁)……丸善株式會社

滿洲の國際經濟(經濟法律論叢、三卷一號、昭和七・七、一五一—三四頁) 服部文四郎

英帝國の經濟建直し、外交時報、六三卷一號、昭和七・七、五九

一七四頁) 島谷 亮輔

國際爲替管理の趨向(外交時報、六三卷一號、昭和七・七、五三—五八頁) 青木 得三

世界の趨勢と日本(東洋經濟新報、一五〇六號、三九—四〇頁) 田川大吉郎

……田川大吉郎

ローザンヌ會議と中央諸國の危機(東洋經濟新報、一五〇六號、一六一—一七頁) 東洋經濟新報社

米國金本位停止の可能性と我國への影響(東洋經濟新報、一五〇二號、一四—一六頁) 東洋經濟新報社

米國の經濟界に就して(銀行通信録、九三卷五七號、八二—八二九頁) アシム・ホアラット

一九一四—三〇年に於ける米國金融市場の外國證券(經濟月報、四卷六號、昭和七・六、一六一—三九頁) 日本商工會議所

金委員會最終報告と世界恐慌匡救策(東洋經濟新報、一五〇七號、昭和七・七、一三一—一五頁) 東洋經濟新報社

世界不況に對する考察(國際知識、一二卷七號、昭和七・六、二〇—二九頁) 小汀 利得

世界經濟政策の錯誤と其の再整(國際知識、一二卷七號、四五—五二頁) 猪谷 善一

\* A market analysis of the population statistics for Great Britain and Ireland. Based on the British Census of 1931 and the Irish Census of 1926. Lond. 1931. 45 S.

\* Canturi, C.: L'organizzazione del commercio estero in Italia. Brescia. 1931. 24 S.

\* Einzig, P.: International Gold movem rts. 2. rev. N. Y. 1932. 182 S.

\* Goldgessel über Deutschland. Vorschläge u. Gedanken zur

Schaffung einer Binnenwährung. Leipzig, 1932. 67 S.

\* Himselster, Les: Revolution der Weltwirtschaft. München. 1932. 307 S.

\* Indian Currency and Exchange 1914-1930. How Government managed it Delhi 1931. 67 S.

\* Lanfer, K.: Die Entwicklung der italienischen Währung von 1914-1927. Berlin. 1931. 86 S.

\* Leemans, V.: De Anschluss en de Duitsch-Oostenrijksche toelue. Brussel. 1931. 38 S.

\* Régime douanier entre l'Allemagne et l'Austriche. Leyde. 1931. 771 S.

\* Rühl, A.: Zur Frage der internationalen Arbeitsteilung. Eine statistische Studie auf Grund der Einfuhr der Vereinigten Staaten von Amerika. Berlin. 1932. 30 S.

\* Schick, A.: Was Sowjetbankwesen und die Rolle der Banken in der Sowjetwirtschaft. Königsberg. 1932. 100 S.

\* Schwarzenberger, G.: Die internationalen Banken für Löhlungsausgleich und Agrarkredite. B. rln. 1932. 101 S.

\* Wajner, N.: La technique moderne du credit à l'exportation. 2. éd. rev. et complétée. Paris. 1931. 256 S.

The breakdown in world trade.—discussion by Bechart, H., Molynaux, P., and others. (Proceeding of the Academy of Political Science, 15-1. 33-51. May. 1932.)

Colly, B.: Should war debt b: cancelled? (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 65-73. May. 1932.)

Cravath, P. D.: World organization in finance and trade. (Proceeding of the Academy of Politi. Science. 15-1. 113-115.

May. 1932.)

Federn, W.: Der Zusammenbruch der Österreichischen Kredit-Anstalt (Archiv f. Sozialwiss. u. Sozialpol. 67-4. 403-455. Jun. 1932.)

Houghton, A. B.: Reparation and war debts. (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 51-53. May. 1932.)

Iseiy, C. C.: Political debts of all nations and their relation to depressed agriculture. (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 73-83. May. 1932.)

Morgan, S.: The political aspect of war debts and reparations. (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 94-103. May. 1932.)

Melville, C. F.: The failure of policy in Europe. (Fortnightly Rev. 36. 737-756. Jun. 1932.)

Newman, M. E. W.: Ottawa and foreign trade. (The nineteenth century. C 11-664. 641-657. Jun. 1932.)

Saito, Y.: China's inherent disunity (Contemporary Japan. 1-1. 62-67. Jun. 1932.)

Seligman, R. A.: The breakdown in World trade. (Proceedings of the Academy of Politi. Science. 15-1. 3-5. May. 1932.)

Solorychlik, G.: France after the elections. (The nineteenth century. C 11-664. 657-667. Jun. 1932.)

Takagi, R.: Japanese interests in Central China. (Contemporary Japan. 1-1. 9. 83-88. Jun. 1932.)

Tanaka, J.: Soviet-Japanese relations. (Contemporary Japan. 1-1. 16-22. Jun. 1932.)



Tobekin, F.: The Soviets prepare for war. (Current History-36-3. 271-275. Jun. 1932.)  
 "Warnamer": South Africa at the conference. (Fornightly Rev. 36. 728-736. Jun. 1932.)  
 Williams, R. H.: Eleven years for reparations. (Current History. 36-3. 291-297. Jun. 1932.)

〔財政學〕

\*世界戦後の國家財政(世界經濟問題叢書第五編)高木壽一著  
 四六判三一三頁 同文館  
 現下の財政經濟問題(國家學會雜誌,四六卷七號,昭和七・七・八八一―九八頁) 小川郷太郎  
 租税と公益(經濟論叢,三五卷一號,昭和七・七・二〇―三六頁) 神戸 正雄  
 昭和七年度實行豫算の決定(同志社論叢,三八號,昭和七・六・四六一―五七頁) 瀨川 次郎  
 フーヴァーモラトリアムと各國財政(世界經濟,一三號,昭和七・七・三三―三五頁) 法政大學世界經濟研究所  
 市町村税制の改正に就て(都市問題,一五卷一號,昭和七・七・二五一―四二頁) 神戸 正雄  
 戸數割代税の現状と其改正(都市問題,一五卷一號,昭和七・七・四三一―五四頁) 永安 百治  
 負擔並税制問題に關する都市問題會議の論争(都市問題,一五卷一號,昭和七・七・五五一―五八頁) 藤岡 兵一  
 獨逸地方團體收益財産の財政的意義(經濟時報,四卷四號,昭和七・七・六八一―七六頁) 高倉恒三郎

重たし貯蓄銀行に對する營業收益税附加税の課税標準に就て(自治研究,八卷七號,昭和七・七・六三―七四頁) 稻村 半栄  
 \* Aloisini, T.: Introduzione allo studio della imposta di ricchezza mobile. Legislazione. Principii generali. Napoli, 1931. 80 p.  
 \* Angelopoulos, A.: Charges fiscales et dépenses publiques. Allemagne. France. Grande Bretagne. Italie. Paris, 1932. VI, 132 p.  
 \* Badischer Städteverband: Der badische Finanzansgleich zwischen Land und Gemeinden. Karlsruhe, 1932. 59 S.  
 \* Bogart, E. L.: The Young plan and other papers. Claremont, Calif. 1931. 164 p.  
 \* De Stefani, A.: Manuale di finanza. Bologna. 1931. XIV, 334 S.  
 \* The Fiscal problem in Massachusetts. New York. Nat. Ind. Conference Bd. 1931. 359 p.  
 \* Fossati, E.: Le conseguenze finanziarie della Guerra. Il problema delle riparazioni e i debiti alleati. Padova, 1931. VII, 423 p.  
 \* Gebhardt, J.: Die steuerlich begünstigten Rücklagen bei Einzelunternehmungen und Personal gesellschaften. Berlin, 1932. VII, 57 S.  
 \* George, D. L.: Die Wahrheit über Reparationen und Kriegsschulden. D utsch von E. v. Schmidt-Pauli. Berlin, 1932. 196 S.  
 \* Grimm, F.: D.s politische Gesicht der Reparationen. Köln, 1931. 27 S.  
 \* Heinicke, G. E.: Schluss mit den Reparationen! 2. Aufl. Pervanzwirtschaft. Jena. 1932. 95 S.

In, 1932. 67 S.  
 \* Hochlehter, M. J.: Reich, Länder und Gemeinden und ihre finanzrechtlichen Wechselbeziehungen. Erlangen-Druck 1931. VIII, 217 S.  
 \* Lindöhl, E.: Aktiebolagens beskattning i Sverige och utlandet. En jämförande undersökning. Stockholm, 1931. 256 p.  
 \* Merlin, II. M. u. E. Schafhauser: Die Steuergesetzgebung des Fürstentum Liechtenstein nach dem Stande vom 1 Februar, 1932. Zürich, 1932. 111 S.  
 \* Mosconi, A.: Esposizioni finanziarie. Discorsi pronunciati alla Camera dei deputati il 29 maggio 1931 e al Senato del Regnollfugno 1931. Rome, 1931. 79 p.  
 \* Niemeyer, O. E. Sir: Reorganizaçao das finanças brasileiras. Relatorio apresentado do governo brasileiro. Rio de Janeiro, 1931. 87 p.  
 \* Raab, F.: Deutschlands Recht zur Einstellung der Reparationen. Dresden 1932. 107 S.  
 \* Schacht, H.: Das Ende der Reparationen. Volksausg. Oldenburg, 1932. 246 S.  
 \* Schmolders, G.: Steuernord und Steuerbelastung; VI, I Allg. theoret. Sozialökonomie (Dalla Volta): IX Deutschland (Stemmer).  
 \* Sirkin, D.: A plain guide to the financial situation London, 1932. 56 p.  
 \* Stamp, J. Sir: Taxation during the war. London, 1932. 266 p.  
 \* Stemmer, C.: Der Untarisierungsgedanke in der deutschen Fi-

nanzwirtschaft. Jena. 1932. 95 S.  
 \* Vanoni, E.: Natura ed interpretazione delle leggi tributarie. Padova, 1932. X. 302 p.  
 \* Wjlonghby, W. F.: Financial condition and operations of the national government, 1921-1930. Washington, 1932. 232 p.  
 \* L'imposition des entreprises étrangères et nationales. Etude sur la législation fiscale et les méthodes de ventilation des bénéfices des entreprises travaillant dans plusieurs pays: en Allemagne, en Espagne, aus Etats-Unis d'Amerique, en France et dans le Royaume-Uni. Genève: Société des Nations. 1932. 219 p. (Ser. de publ. de la Société des Nations 2. A. 1932, 3.)  
 \* Cobly, B.: Should war debts be cancelled? (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1, 60-72 May, 1932.)  
 \* Handelsvertretung der UdSSR in Deutschland: Neue Fortschritte der Industrialisierung (Sivierwirtschaft und Aussenhandel Jahrg. 11-9. 5-7 Mai, 1932.)  
 \* Hertein, A.: Konjunkturausgleich und Besteuerung. (Zeitschrift f. Betriebswirtschaft. 9. 6. 369 372 1932.)  
 \* Houghton, A. P.: Reparations and war debts (Proceedings of the Academy of pol. science. 15 1, 51-52 May, 1932.)  
 \* Isely, C. C.: Political debts of all nations and their relation to depress d agriculture.(Proceedingt of the Academy of pol. science. 151. 73-83 May, 1932.)  
 \* Kiep, O. C.: The Pass of german credit. (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1.) 84-93 May, 1932.  
 \* Lütkens, C.: Budgetkontrolle in den Vereinigten Staaten (Die

Gesellschaft. 9. 6. 510-524 Juni, 1932.)  
 Morgan, S.: The political aspects of war debts and reparations (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. 94-103 May 1932)  
 Olivier, S.: Eine sozialistische Kritik der Zuckerwirtschaft (Sozialistische Monatshefte. 6. 505-508 Juni, 1932.)  
 Simpson, H. D.: Incidence of real estate tax's (The American Economic Review, 22-2, 219-230 June, 1932.)  
 Wadworth, E, and others: Discussion: reparations and war debts (Proceedings of the Academy of pol. science. 15-1. 104-112 May, 1932.)  
 Williams, B. H.: Eleven years of reparations (Current History, 36-3, 291-297 June, 1932.)

〔經營經濟學〕

\* 商業經營要論 鈴木保良著 菊判一八三頁 高原書店  
 商工經營經濟解説(四) (企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 六九一-七六頁) 村本 福松  
 企業經營學講話(四) — 企業の交通經營力と市場力(その二) (企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 七七一-九一頁) 松井辰之助  
 シーベル「經營經濟學の對象と方法」(商學評論, 一一卷一號, 昭和七・六, 一六四-一六九頁) 池内 信行  
 經營經濟學と私經濟學—ホフマンの思想を中心として—(企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 四三一-六八頁) 池内 信行  
 經營活動論(企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 九二-一〇四頁) 山本 榮助

保險經營形態の發展—保險制度と物質的生產力との關係の考察(の一節—)(企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 一五一-二七頁) 小林北一郎  
 議決權の代理行使に就て (企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 二八-四二頁) 田坂 市松  
 業務改善研究會に關する調査 (工場研究, 八四號, 昭和七・五, 三四-四一頁) 兵庫縣工業會  
 合理化されたる工場組織と其の勞働條件(下)—パタ製靴會社工場經營及勞働組織の研究— (社會政策時報, 一四二號, 昭和七・七, 四三-五八頁) 西本 喬  
 蠶糸業合理化に於ける特約組合の意義(社會政策時報, 一四二號, 昭和七・七, 二八-四二頁) 久保山千里  
 農業に於ける技術の發展 (經濟學論集, 二卷六號, 昭和七・六, 三七-六八頁) 東畑 精一  
 豫算統制の實證的研究 (早稻田商學, 八卷二號, 昭和七・七, 一三-一六三頁) 長谷川安兵衛  
 勞働の生理及衛生(五) (産業福利, 七卷七號, 昭和七・七, 二四-二九頁) エフ・ケルシュ, 大西清治譯  
 マックス・ウェーバー「工業勞働者の淘汰及び適應について」 (企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 一〇五-一〇八頁) 上林貞治郎  
 銀行の福利増進施設 (銀行研究, 二三卷一號, 昭和七・七, 五六-六六頁) 藤原 泰  
 産業の立憲化(商學論叢, 五號, 昭和七・六, 一〇九-一一七頁) 梅浦 健吉  
 市場分析の研究(會計, 三一卷一號, 昭和七・七, 二九-五四頁) 坂本 重嗣

我國一般消費財市場の分析(商學評論, 一一卷一號, 昭和七・六, 二八-六二頁) 田村 市郎  
 配給經營に於ける一般觀と個別觀 (企業經營, 六卷五號, 昭和七・六, 一一-四頁) 村本 福松  
 米國百貨店の連鎖化及共同動作, 米國百貨店概観, 續篇(商學論叢, 五號, 昭和七・六, 一一九-一八〇頁) 伊藤永治郎  
 米國に於ける割賦販賣の實況(明大商學論叢, 一二卷三號, 昭和七・六, 八三-九七頁) 松本 瀧藏  
 菓子の過去現在及び將來 (商學論叢, 五號, 昭和七・六, 六一-一〇八頁) 松崎半三郎  
 \* Churchill, W. L.: Pricing for profit; the golden rule of business. New York, 1932. 315 p.  
 \* Epstein, R. C.: Business planning. Chicago, 1932. 9 p. (Economic lect. 18)  
 \* Feller, F. M.: Psycho-Dynamik der Reklame. Bern, 1932. 358 S., 6 Taf.  
 \* Gerstenberg, C. W.: Financial organization and management of business Rev. ed. New York, 1932. 840 p.  
 \* Herzog, R.: Vergleichende Reklame. Die Grenzen ihrer Zulässigkeit. Berlin, 1932. 41 S.  
 \* Link, H. C.: The new psychology of selling and advertising. Forew. by J. B. Watson. New York, 1932. 316 p.  
 \* Lovitt, W. V., and H. F. Holtzclaw: The mathematics of business. 2. ed. New York, 1932.  
 \* Ludwig, H.: Budgetontrolle in industrieelle orderneungen. Leiden, 1932. 121 p. (Handelswetenschappelijke bibliotheek. 48)

最近經濟文獻

〔會計學〕

企業に於ける貸借對照表問題(會計, 三一卷一號, 昭和七・七, 一八-二八頁) 黒澤 清  
 三元的貸借對照表觀の吟味(其一)(會計, 三一卷一號, 昭和七・

七、六六一八〇頁) 杉本 秋男  
 資産評價準則(未定稿)會計、三一卷一號、昭和七・七、八一、一九〇頁) 合理局財務管理委員會  
 會計の眞價(會計、三一卷一號、昭和七・七、一五六—一五八頁) 田中 久吉  
 用品資産制度(會計、三一卷一號、昭和七・七、一四四—一五五頁) 北原 信男  
 損益計算論—簿記の勘定體系(二) (經濟學論集、二卷六號、昭和七・六、一—三六頁) 中西 寅雄  
 勘定理論に於ける一元的方法と二元的方法(會計、三一卷一號、昭和七・七、五五—六五頁) 島中 福一  
 會計學の對象たる資産・負債・資本の性質に就いて(會計、三一卷一號、昭和七・七、一〇九—一三一頁) 岡本 眞一  
 公企業形態を會計制度(會計、三一卷一號、昭和七・七、一—七頁) 増地庸次郎  
 地方鐵道の建設費に對する益金割合(會計、三一卷一號、昭和七・七、一三三—一三四頁) 佐藤 雄能  
 預金實務をカードシステム(十二) (銀行研究、二三卷一號、昭和七・七、一四一—一六一頁) 青木定次郎  
 財政計算書の分析(橫濱高商、商學、八號) 小宮山敬保  
 全國普通銀行資産負債の構成(會計、三一卷一號、昭和七・七、一三五—一四三頁) 與賀田辰雄  
 \* Erlar, F.: Wie bilanzare ich jetzt richtig? Für alle Handelsgesellschaften, Genossenschaften und Einzelkaufleute. Charlottenburg. 1932. 100 S.  
 \* Rauh, R. u. Schnitz, K.: Die neue Bilanz der Aktiengesellschaft in rechtlicher und betriebswirtschaftlicher Beleuchtung.

Erläuterungen zu Bilanz, Gewinn- und Verlustrechnung und Geschäftsbericht. Berlin, 1932. 113 S.  
 \* Mertens, I.: Bilanzprüfung, Bilanzanalyse, Einführung und Wegweiser für bilanzanalytische und bilanzkritische Arbeiten. Leipzig. 1932. 139 S.  
 Auler, Dr.: Der Unternehmensmehr- und minderwert in der Bilanz. (Z. f. Betriebswirtschaft. 4, 6. 364-369. Juni, 1932)  
 Minz, W.: Die Gewinn- und Verlustrechnung nach § 261 c unter Berücksichtigung des § 260 b HGR. (Grundsätze ordnungsmässiger Buchführung). (Z. f. handelswiss. Forschung. 26, 5. 2. 25-250. Mai, 1932.)  
 Blom, F.: Die Behandlung schwebender Geschäfte in Buchführung und Bilanz. (Z. f. handelswiss. Forschung. 26, 5. 250-261. Mai, 1932.)  
 Fried-Heinrich, A.: Das Selbstkostenblatt und seine Ergänzung n. (für Betriebe mit Divisionskalkulation). (Betriebswirtschaft. 25, 6. 121-125. Juni, 1932.)  
 Weigmann, W.: Kostenelemente der Elektrizitätswirtschaft (Betriebswirtschaft. 25, 6. 125-130. Juni, 1932.)  
 Kürbs, F.: Selbstkostenermittlung und Selbstkosten bei den Landverkehrsmitteln. II. (Betriebswirtschaft. 25, 6. 130-134. Juni, 1932.)

【社會學】

\* 文化社會學(文化社會學研究叢書(第三卷)社會學研究會編

菊判三八七頁 同 文 館  
 文化社會學(戶坂潤)、文化哲學(岩崎勉)、マックス・ヴェーバー  
 一文化社會學(佐藤隆二)、文化社會學と歴史性(樺後雄)、  
 現代アメリカ文化社會學(早瀬利雄)、フランス社會學の理  
 論形態(梯明秀)、コントに於ける三段階の法則(清水幾太  
 郎)、ルカッチの文化社會學(武田良三)、レーニンの文化理  
 論(山崎謙)、文化社會學文獻  
 \* 唯物史觀(第三書、人間社會)カール・カウツキー著、佐多忠隆  
 譯 菊判六四四頁 日本評論社  
 \* 經濟的史觀 社會文庫) ヘルト著 山田一郎譯 日本評論社  
 \* 生産力論(辯證法講座二) プロコソヴェト同盟研究會譯  
 四六判 一七七頁 白揚社  
 \* シュメルの社會學論 山下覺太郎譯 寶文館  
 \* 社會學講義案 難波紋吉著 元文堂  
 \* 中間階級の社會學 室伏高信著 四六判三〇六頁 日本評論社  
 (レーゲルの理念と唯物史觀(東北經濟論叢、四卷、昭和七・七、  
 一—一頁) 岡田 實一  
 文化社會學における社會概念(理想、六年、二册、昭和七・五、五  
 一—三頁) 松本潤一郎  
 知識社會學批判(理想、六年二册、昭和七・五、二四—四三頁) 小松堅太郎  
 文化社會學とマルクス主義社會學(理想、六年二册、昭和七・  
 五、四四—六二頁) 清水幾太郎  
 社會學と現在哲學(ヤスパース)(理想、六年二册、昭和七・  
 五、六三—七三頁) 湯淺誠之助

個人主義・普遍主義・社會主義—メンタンの社會本質論—理  
 想、六年二册、昭和七・五、七四—八六頁) 阿部 源一  
 \* Tubb, E. E.: The concepts of sociology. A tentative presen-  
 ting a suggested organization of sociological theory in terms  
 of its major concepts Boston, 1932. 587 p.  
 \* Keller, A. G.: Societal evolution. London, 1932. 12 p.  
 \* Martin, E. D.: The conflict of the individual and the mass in  
 the modern world. New York, 1932. 200 p.  
 \* Paly, J. A.: Esquisse d'une philosophie sociale envisagée du  
 point de vue de la science moderne. Paris, 1931. IX, 152  
 p.  
 \* Simiand, F.: Le salaire. L'évolution sociale et la monnaie.  
 Essai de théorie expérimentale du salaire. T. I. Paris, 1932.  
 XXXII, 587 p.  
 \* Steinberg, W.: Soziale Seelenhaltungen. München, 1932. 151  
 S.  
 Bata, J.: Die geschichtlichen Grundlagen der Gesellschafts-  
 lehre. (Ständisches Leben. Wien. 2, 3. 142-149. 1932.)  
 Gerlichs, W.: Probleme der Kriminalsoziologie. (Köhner  
 Vierteljahrshefte f. Soziologie. 10, 4. 464-478. 1932.)  
 Müller-Freienfels, R.: Zur Soziologie und Sozialpsychologie  
 der Wissenschaft. (Z. f. Völkerpsychologie u. Soziologie. 7,  
 4. 401-419. Dez. 1931.)  
 Ogburn, W. F.: Die realistische Soziologie in Amerika. (Soci-  
 ologus. 8, 1, 7-22. März, 1932.)

Thunwald, R.: Realistische Soziologie. (Sociologus. 8, 1, 1-4 März. 1932.)  
 Wiese, I. v.: Bemerkungen zu Johann Plengens Auslan der Beziehungslehre. (Köher Vierteljahrshfte f. Soziologie. 10, 4, 537-558. 1932.)  
 Young, P. V.: Varieties of German contemporary sociology. (Sociology and Soc. Research. Los Angeles. 16, 4, 355-366. March, April. 1932.)

〔社會問題〕

\* 社會思想史 シュタイン著 協調會譯 菊判 協調會  
 \* 現代思想生活の批判序説 野尻義一著 菊判 三元社  
 \* 上級無産者教程(マルクス主義レーニン主義經濟學入門) 山本三吾譯 四六判 叢文閣  
 \* ロー・ザルクセンブルグの手紙、岩波文庫(ルイゼ・カウツキ) 編 松井圭子譯 菊半截 岩波書店  
 \* レーニン主義の諸問題(五)スターリン著 西雅雄譯 四六判  
 \* インターナショナルは何處へ行く(パクトーニン全集五) 社會理想研究會譯 四六判 近代評論社  
 \* 國民主義と國際主義(世界經濟問題叢書四) 加田哲二著 四六判三一六頁 同文館  
 \* 國家社會主義團體一覽表(關東關西之部) 大月社會問題調査所  
 \* ヒットラー主義 ノーティカス著、木崎克譯 四六判 改造社

\* フランシズム研究 磯貝實譯 四六判 耕進社  
 \* フランシズム論 エルコロ著 吉野萬野共譯 四六判  
 \* フランシヨの嵐 伊達龍城著 四六判 明治圖書出版協會  
 \* 改良主義に抗して(プロレタリア文庫) 高山洋吉譯 四六判  
 \* プロレタリアートと文化の問題 藤原惟人著 四六判  
 \* 最近支那の社會運動(支那、二三卷七號、昭和七、七、四一八七頁) 岡野 一朗  
 \* 大戰以來の婦人の雇傭状態(世界の勞働、九卷七號、昭和七、七、一一一三頁) 楠原祖一郎  
 \* 最近我國一般勞働事情(一)(産業福利、七卷七號、昭和七、七、三六一四八頁) 楠原祖一郎  
 \* 一九三一年獨逸に於ける勞働爭議(勞働時報、昭和七、五、五頁) 矢内原忠雄  
 \* 一九三〇年英國に於ける登録勞働組合(勞働時報昭和七、五、四一五頁)  
 \* 最近に於ける國家社會主義運動の概要(勞働時報、昭和七、五、一三一六頁)  
 \* 國民主義と國際主義(理想、三三號、昭和七、八、五一一九頁)  
 \* 日本に於けるフランシズムの概観(三田學會雜誌、二六卷七號、昭和七、七、三九一八五頁) 加田 哲二  
 \* フランシヨの認識と對策(外交時報、六六二號、昭和七、七、一〇八一七頁) 今中 次磨  
 \* 日本主義とフランシズム(經濟往來、七卷七號、昭和七、七、

八一八七頁) 土方 成美  
 \* 日本主義の社會的關聯(經濟往來、七卷七號、昭和七、七、四三—五〇頁) 松本潤一郎  
 \* 資本主義、帝國主義、日本主義(經濟往來、七卷七號、昭和七、七、一一一五頁) 長谷川如是閑  
 \* 現代の思想的アナキーとその原因の檢討 (改造、一四卷七號、昭和七、七、二二八頁) 田中耕太郎  
 \* 統計上より見たる農村窮乏(中央公論、四七卷七號、昭和七、七、二一四三頁) 有澤 廣巳  
 \* 農村目前の問題と基本的問題(經濟往來七卷七號、昭和七、七、二三六—二四四頁) 本位田祥男  
 \* 農村の行方(東北經濟論叢、四號、一〇三—一三二頁) 氏家 文男  
 \* 自作農の反亂 經濟往來七卷七號、昭和七、七、二五五—二五八頁) 近藤 康男  
 \* 農村疲弊の實相(經濟往來七卷七號、昭和七、七、三二五—三二八頁) 稻村 隆一  
 \* 農村窮乏第三期(經濟往來七卷七號、昭和七、七、三二〇—三二四頁) 田所 輝明  
 \* 没落資本主義經濟の犠牲(經濟往來七卷七號、昭和七、七、三〇七—三〇九頁) 杉山元治郎  
 \* 資本主義經濟の産物(經濟往來、七卷七號、昭和七、七、三二一—三二四頁) 須永 好  
 \* Gasparini, G.: Belle ideali e brutte realtà ossia il comunismo e il socialismo in teoria e in pratica. 1931. 51 p.  
 \* Il 4. Congresso del partito comunista d'Italia. 1931. 197 p.  
 \* Krupskaja, N.: Ricordi su Lenin. Vol. I. Paris, 1931. 244 p.

最近經濟文獻

\* Putz, H.: Dokumente Kommunistischer Führerkorruption. Die KPD im Dienste d. russ. Aussempolitik. Leipzig, 1931. 31 S.  
 \* Treves, R.: La dottrina sansimoniana nei pensieri italiano del risorgimento. Contributo alla storia della filosofia sociale in Italia nella prima metà del secolo 19. Torino, 1931. 83 p.  
 \* Adler, F.: Das Stalinische Experiment und der Sozialismus. Wien, 1932. 15 S.  
 \* Pariz, K.: Bolshevismus über uns! Berlin, 1932. 214 S.  
 \* Benenbarg, D. P.: Socialist Fundamentals. New York. 1932. 118 p.  
 \* Counts, G. S. & Others: Bolshevism, Fascism and Capitalism. 1932. 274 p.  
 \* Faure, S.: Mi comunismo. La felicidad universal. Barcelona. 1932. 531 p.  
 \* Lenin, N.: Sämtliche Werke. Einzige vom Lenin-Institut in Moskau autor. Ausg. Ins Dt. übertr. nach d. 2., eng. u. russ. Aufl. Bd. 8. Die Revolution von 1905. Die Höhepunkte d. allg. Volkserhebung. Berlin, 1932. VIII. 740 S.  
 \* Murry, J. M.: The necessity of Communism. London, 1932. 136 p.  
 \* Proletarische Irwege. Die Entwicklung d. Kommunist Partei Österreichs. Wien. 1932. 31 S.  
 \* Renner, K.: Mittelstand und Sozialismus. Ein klares Wort an Gewerbetreibende und Bauern über d. Grundfragen d. Wirtschaft. Wien, 1932. 15 S.  
 \* Salomon, A.: Soziale Führer. Ihre Leben, ihre Lehren, ihre

- Werke. Leipzig, 1932. 151 S.
- \*Thälmann, E.: Der revolutionäre Ausweg und die KPD. Rede auf d. Plenartagung d. Zentralkomitees d. Kommunistisch Partei Deutschlands am 19. Febr. 1932 in Berlin, Hrg. v. d. Kommunistisch Partei Deutschlands. Berlin, 1932. 96 S.
  - \*Hasselbach, U. v.: Die Entstehung der Nationalsozialistischen deutschen Arbeiterpartei 1919-1933. Breslau, 1931. VI. 70 S.
  - \*Abel, A.: Hitlers ausserpolitische Katastrophe. Berlin, 1932. 22 S.
  - \*Hindenburg, G. v.: Paul v. Hindenburg. Vom Kadetten zum Reichspräsidenten. Leipzig, 1932. 231 S.
  - \*Hoffmann, H.: Hitler, wie ihn keiner kennt. 100 Bild-Dokumente aus a. Leben d. Führers. Hrgg. Geleit v. v. Unterschriften: Faldur v. Schirach. Berlin, 1932. X. V. 96 S.
  - \*Krojanter, G.: Zum Problem des neuen deutschen Nationalismus. Eine zionist. Orientierung gegenüber d. nationalist. Strömungen unserer Zeit. Berlin, 1932. 43 S.
  - \*Krumm, P.: Der Sozialismus der Hitlerbewegung im Lichte Spenglerscher Geschichtsforschung oder Die tiefste Ursache für den Aufstieg des Nationalsozialismus in Deutschland. Gelden. 1932. 29 S.
  - \*Kupisch, J.: Christentum im Nationalsozialismus. München, 1932. 36 S.
  - \*Leers, J. v.: Adolf Hitler. Leipzig, 1932. 95 S.
  - \*Lüpke, H. v.: Kirche und Nationalsozialismus in ihrer Entschaidungsstunde. Berlin, 1932. 19 S.
  - \*Mahrann, A.: Hindenburg. Berlin, 1932. 15 S.
  - \*Metzsch, H. v.: Hindenburg. Leipzig, 1932. 92 S.
  - \*Die Nazis sau Lande, Material über d. Zwiespalt Ttigkeit d. Nationalsozialisten auf d. Lande. Hrg. vom Vorstand d. Dt. handarbeiter-Verb. Berlin, 1932. 80 S.
  - \*Dahlberg, A. O.: Jobs, machines, and capitalism. New York, 1932. 270 p.
  - \*Dennis, L.: Is capitalism doomed? New York, 1932. 339 p.
  - \*Ranacci, R.: Mussolini. Catania: Studio ed. Moderno 1931. 48 p.
  - \*Confederazione generale del lavoro d'Italia. L'Azione dei sindacati di classe sotto il terrore fascista. Resoconto della Conferenza confedere. Paris, 1931. III 145 p.
  - \*Fattini, G.: Versolaneta. Provvidenze e realizzazioni del fascismo. Lezioni di cultura fascista. Firenze, 1931. 86 p.
  - \*Foa, A.: L'Italie en marche. Turin, 1931. 177 p.
  - \*Giacchetti, A.: Undici anni di fascismo (1919-1930) Ancona. 1931. 221 p.
  - \*Giamberrardino, O. di: Il fascismo e gli ideali di Roma. Con pref. di Silianni. Firenze. 1931. 378 p.
  - \*Petrie, C.: Mussolini, London, 1931. 186 p.
  - \*Silliani, J.: L'Etat Mussolinien et les réalisations du fascisme en Italie. Etudes et documents réunis et présentés. Pref. de Charles Benoist. Paris, 1931. 397 p.
  - \*Illüßer, P.: Der Kartellcharakter von Gewerkschaft und Arbeitsverband. Berlin, 1931. 129 S.
  - \*Labor fact book (Kommunistische Verbitf) New York, 1931.

- 222 p.
- \*Report of the 12. national congress of labour women. London, 1931.
  - \*Saccerdoti, P.: Le associazioni sindacali nel diritto pubblico germanico. Padova, 1931. VIII. 282 p.
  - \*Unemployment status of negroes. A compilation of facts and figures respecting unemployment among negroes of 105 cities. New York, 1931. 56 p.
  - \*Aaron: Unemployment. Chicago, 1932. 54 p.
  - \*Ellton, G.: Towards the new Labour Party. Introd. by M. MacDonald. London, 1932. 72 p.
  - \*Gambos, J. S.: The decline of I. W. W. ("Industrial Workers of the World") New York, 1932. 268 p.
  - \*Garratt, G. J.: The Mugwumps and the Labour Party. London, 1932. 158 p.
  - \*Hilfenbürger, L.: Der Werdegang der nationalen Gewerkschaften. Wien, 1932. 64 S.
  - \*Hilman meiner speak: Report on terrorism in the Kentucky coal field prepared by members of the National Committee for the Defence of Political Prisoners. New York, 1932. 360 p.
  - \*Der Kampf gegen die Arbeitslosigkeit. Ein sozialist. Programm zur Beseitigung d. Wirtschaftskrise. Berlin, 1932. 39 S.
  - \*Lehmann, B.: Wege zu Arbeit und Brot. Betrachtungen u. Berechnungen über d. Auswirkung d. Streichung von Produktionsgaben in d. öff. Haushalten. Stettin. 1932. 15 S.
  - \*Neundorfer, I.: Frauendanken zum Beruf. Münster, 1932. 85

- S.
- \*Haydn, J.: Russland 1932. Wien-Leipzig. 1932. 258 S.
  - \*Mehner, K.: Die Jugend in Sowjetrußland. Berlin, 1932. 273 S.
  - \*Rennele, H.: Die Sowjet-Union. Bd. I. Hamburg-Berlin. 1932. 299 S.
  - Keyns, J. M.: The dilemma of modern socialism. (Pol. Quarterly. 3. 2. 155-161. April-Juni. 1932.)
  - Neumann, B.: Kommunalsozialismus. (Sozialistische Monatshefte. 6. 531-534. Juni, 1932.)
  - Schiffin, A.: Die Sozialistische und die Kommunistische Partei bei den französischen Parlamentswahlen. (Sozialistische Monatshefte. 6. 495-500. Juni. 1932.)
  - Marx, K.: [Kritik der Hegelschen Dialektik und Philosophie überhaupt] (1844.) (Unter dem Banner des Marxismus. 5, 3. 256-275)
  - Marx, K.: Thesenwurf zur Kritik der Hegelschen Phänomenologie (Unter dem Banner des Marxismus. 5. 3. 255-256)
  - Faba, J.: Trade Unions and the Labour Movement. (Contemporary Japan 1. 1. 89-94. June. 1932)
  - Bach, O.: Gewerkschaftsbewegung. (Sozialistische Monatshefte. 6. 534-537. Juni. 1932)
  - Corssen, M.: Frauenbewegung. (Sozialistische Monatshefte. 6. 540-542. Juni. 1932.)
  - Garry, S.: The First Bolshevik Workers Daily. (The Labour Monthly. 14. 6. 377-382. June. 1932.)
  - Habrier, G. and A. H., Hansen.: Some remarks on Prof.

Hansen's view on technological unemployment with rejoinder by Prof. Hansen. (Quart. J. of Econ., 46, 3, 558-565, May, 1932.)  
 Hasselmann, E.: Genossenschaftsbewegung. (Sozialistische Monatshefte. 6, 537-540. Juni. 1932.)  
 Laughlin, E.: The Miners' Fight for seven Towns (The Labor Monthly. 14, 6, 369-376. June. 1932.)  
 Ströbel, H.: Gegenwartsaufgaben der Arbeiterklasse. (Gewerkschaft. Rdsch. 24, 4, 151-120. April. 1932.)  
 Schwarz, S.: Fünfjahrplan und Sozialismus. (Die Gesellschaft. 9, 6, 525-547. Juni. 1932.)

【社會政策】

\* フラッシュ政體に於ける労働政策 下位春吉著 四六判四二〇頁  
 \* 我國に於ける貨銀及物價の統計的研究 三宅喜二郎著 菊判一七八頁  
 \* 職業指導講演集 大日本職業指導協會編 菊判三一五頁  
 \* 第三回全國都市問題會議議總會七册 全國都市問題會議事務局編 菊判第一、二册研究報告、第三、四、五册、參考資料、第六册議事要録、補册研究報告) 同 局  
 \* 工場と地域制矢野兼三著 四六判一八七頁 森山 書店  
 \* 都市の新計畫(建築、造園、工藝、第五輯) 西川友孝編輯 菊判一八七頁 金星堂  
 \* 東京市之立體的考察 松尾小三郎著 菊判二四四頁……

……東京豆滿江協會  
 フラッシュ労働組合法施行法(同志社論叢、三八號、昭和七、六、一九三—二〇七頁) 具島兼三郎譯  
 労働權の法律的實現(二・完)(法律新報、四二卷七號、昭和七、七、四八—六四頁) 村 教三  
 佛國労働者傷害補償制度の概観(早稻田法學、一二卷、昭和七、二、六〇頁) 山口 西  
 労働災害扶助法規に關する解釋例規(産業福利、七卷七號、昭和七、七、五八—七三頁) 社會局  
 工場監督覺え帖(一)(産業福利、七卷七號、昭和七、七、五二—五七頁) 矢野 兼三  
 工場監督主任官協議會(労働時報、九卷五號、昭和七、五、一〇—一三頁) 社會局労働部  
 群小工場の業界攪亂性と工場法の適用(法律時報、四卷七號、昭和七、七、二七—二八頁) 矢野 兼三  
 工場安全化の實際的手段(産業福利、七卷七號、昭和七、七、一一—一頁) 社會局労働部監督課  
 安全運動と清潔整頓(其二)(産業福利、七卷七號、昭和七、七、三—六頁) 蒲生 俊文  
 就業規則に依る制裁調(工場研究、八四號(昭和七、五、四二—五七頁) 川端 高一  
 第十六回國際労働總會の採擇せる條約案及勸告(世界の労働、九卷七號、昭和七、七、五三—七二頁) 國際労働局東京支局  
 労働者「代表」の再吟味(社會政策時報、一四二號、昭和七、七、一一—一三五頁) 前田 一  
 イギリス協力内閣の労働政策(世界經濟、一二號、昭和七、六、三六—五二頁) 南 謹 二

低學年の職業指導と合科學習(職業指導、五卷七號、昭和七、七、六五—七七頁) 藤田 伸七  
 感化事業管見(地方行政、四〇卷六號、昭和七、六、二五—三三頁) 外山 福男  
 サウエート聯邦老廢及遺族保險の改正(世界の労働、九卷七號、昭和七、七、二二—二六頁) 國際労働局東京支局  
 社會連帶思想と社會保險(商學論叢、五號、昭和七、六、一一—一六四頁) 星野 辰雄  
 東京市の市域擴張に伴ひ緊急措置するを要する市政對策(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、一一—一九頁) 東京市政調査會  
 帝都の新構成と其の問題(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、一一—二二頁) 池田 宏  
 都市の空中淨化問題(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、五九—八四頁) 藤原九十郎  
 名古屋市に於ける下水と糞尿處理に就て(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、八五—一〇二頁) 池田篤三郎  
 都市に於ける糞尿處理(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、一〇三—一一三頁) 高野 六郎  
 都市清潔保持問題を圍へる都市問題會議の計議(都市問題、一五卷一號、昭和七、七、一一—一五頁) 神田 純一  
 \* Alters- und Hinterlassenen-Versicherung. Referentendisposition u. Material-Zusammenstellung f. unsere Vertrauensmänner. Hrsrg. v. Aktionskomitee d. Arbeiterschaft f. d. Alters- u. Hinterlassenenversicherung. Fern, 1931. 32 S.  
 \* Bruckner, K.: Der Begriff der Arbeitslosigkeit nach dem Reichsgesetz über Arbeitsvermittlung und Arbeitslosenversicherung vom 16. Juli 1932, in der Fassung vom 12. Oktober,

1929, 1932. 92 S.  
 \* Conference on permanent preventives of unemployment. Permanent preventives of unemployment; addresses. Baltimore, 1931. 100 p.  
 \* Craig, J. D.: Is unemployment insurance feasible and practicable and can it be made secure from an actuarial basis under a political government? A paper read at the Eastern regional savings conf. New York, 1932. 14 p.  
 \* Das Alter für die Zulassung von Kindern zur Arbeit in nicht-gewerblichen Berufen. 2. Beratung. 3. Punkt d. Tagesordnung. Genf, 1932. 263 S. (Int. Arbeitskonferenz. 16. Tagung. Genf, 1932. Bericht.) [Auch engl. u. franz. erscheinen.]  
 \* Der Einsatz in lebenswichtigen Betrieben. Hrsrg. von d. Hauptstelle d. Tech. Nothilfe e. V. Berlin-Steglitz, 1932. 97 S., 1 Taf.  
 \* Dickel, O.: Arbeitsbeschaffung durch Ausgleichskassen. München. 1932. 32 S.  
 \* Diel, J., u. K. Dunkmann: Wer gibt Auskunft? Auskunftstellen f. Schüler höherer Lehranstalten, Abiturienten, Studenten u. Akademiker. Neuausg. 1932. Berlin, 1932. 16 S. (Merkl. f. Berufsberatung d. Akademiker E. V. Sonderreihe.)  
 \* Die Vorschriften über Arbeitslosenversicherung. Altersfürsorge für Arbeitslose, Arbeitsvermittlung, Arbeitsbeschaffung, Ein- und Auswanderung. 2. erneuerte Aufl. Hrsrg. von Karl Forstheimer. Wien, 1932. XIX, 840 S. (Sozialpolit. Gesetzgebung in Österreich, 6.)  
 \* Eichler, W., u. H. Rauschenplat: Der Kampf gegen die Arbeits-

- losigkeit. Ein sozialist. Programm zur Beseitigung d. Wirtschaftskrise. Hrsg. vom Int. sozialist. Kampf-Bund. Berlin, 1932. 39 S.
- \*Eickenscheidt, H.: Die internationale Organisation der Wohlfahrtspflege. Coburg, 1931. X, 34 S.
- \*Enderucks, B.: Das Ende der Erwerbslosigkeit: Die National-Unternehmung. Mit einer Einf. von H. Uhlmann. Berlin-Tempelhof, 1932. 80 S.
- \*Field, A. W.: Protector of women and children in Soviet Russia. New York, 1932. 241 p.
- \*Fürsorgerecht. Sammlung d. wichtigsten einschlägigen Gesetz u. Verordnungen d. Reichs u. d. Länder. Textausg. mit Verweisungen u. Sachverz. München, 1932. VII, 278 S.
- \*Gagliardo, D.: Labor legislation in Kansas. Lawrence, 1931. 64 p. (Kansas stud. in business research. 14.)
- \*Gurwitsch, G.: Le temps présent et l'idée du droit social. Paris, 1931. XVI, 336 p.
- \*Hloor, R. S.: Unemployment insurance in Wisconsin. Milwaukee, 1932. 112 p.
- \*Hleinemann, G. W.: Kassenarztrecht. Nach dem Stande d. 4. Notverordnung d. Reichspräsidenten zur Sicherung von Wirtschaft u. Finanzen u. zum Schutze d. inneren Friedens vom 8. Dez. 1931, dargestellt u. erl. 2., veränd. Aufl. Berlin, 1932. XII, 286 S.
- \*Ichert, F., u. J. Weicksel: Grundriss der sozialen Medizin. Leipzig, 1932. IX, 384 S., 102 Tab.
- \*Lasorsa, G.: La statistica dei salari industriali in Italia. (1914-

- 1928] Padova, 1931. VIII, 97 p.
- \*Législation minière et législation ouvrière. Textes des principales lois et répertoire méthodique des lois, décrets, circulaires et autres documents officiels intéressant les mines et leur personnel. 7. éd. Comité central des houillères de France. Paris, 1931. 450 p.
- \*Litala, L. de: Il contratto di lavoro. 2. ed. internamente riv. Torino, 1931. 406 p.
- \*Molenaar, H.: Volkswirt durch Wohlfahrtsbürokratismus oder praktische Sozialversicherung? Regensburg, 1931-1932. 78 S.
- \*Nafalisohn, A.: La protection sociale des travailleurs dans les nouvelles constitutions de l'Europe centrale. Paris, 1931. 219 p.
- \*North, C. C.: Social problems and social planning; the guidance of social change. New York, 1932. 409 p.
- \*Osman, J. M.: Les œuvres sociales fondées à New York pour les enfants infirmes. Paris, 1931. 148 p.
- \*Proceedings of the rational conference of social work (formerly national conference of charities and correction), at the 38. annual session held in Minneapolis, Minnesota, June 14 20, 1931. Chicago, 1931. 712 p.
- \*Resch, J.: Die Arbeitslosenversicherung in Österreich. 2. Aufl. Wien, 1932. 89 S.
- \*Richter, L.: Das Kassenarztrecht von 1931/32. Leipzig, 1932. VII, 143 S. (D. Arzt. in Rech. u. Gesellschaft. 6.)
- \*Roessler, W.: Die Arbeitskraft als Rechtsgut. Berlin, 1931. XII, 100 S.

- \*Rosenthal, D.: La paix industrielle et le mouvement trade-unioniste contemporain en Grande Bretagne. Paris, 1931. 296 p.
- \*Rosberg, W.: Das Recht auf den Urlaub. Grono (Kr. Göttingen), 1931. 106, VI S.
- \*Ryan, F. L.: A history of labor legislation in Oklahoma. Norman, Okla., 1932. 144 p.
- \*Schick, H.: Das Verhältnis von Beitrag und Leistung in der deutschen Sozialversicherung. Dillingen, a. D. 1931. 148 S.
- \*Smith, E. S.: Reducing seasonal unemployment. The experience of American manufacturing concerns. New York & London, 1931. XVII, 296 p.
- \*Smith, T. M.: The unemployment problem; a Catholic solution from the viewpoints of ethics, history, and social science. Milwaukee, 1932. 237 p.
- \*Spohr, W.s.: Das Strafrecht der Sozialversicherung. Stuttgart, 1932. 86 S.
- \*Stekhoven, W.: S. De beoordeeling van de arbeidsgeschiktheid van verzekerden onder de ziektewet. Met medewerking van J. W. M. Indemans, F. A. Schalk, F. N. Sickenga. 1932. 184 p.
- \*Stubbs, A. H.: Financial and social success in welfare plans. Kansas City, Mo., 1932. 267 p.
- \*Teilweise Abänderung des Übereinkommens über den Schutz der mit dem Beladen und Entladen von Schiffen beschäftigten Arbeitnehmer gegen Unfälle. 4. Punkt d. T.-Gesordnung.

- Genf, 1932. 107 S. (Auch engl. u. franz. erscheinen.)
- \*Ulrich, F.: Die weltanschaulichen Grundlagen der Wohlfahrtspflege. Berlin, 1932. VII, 142 S.
- \*Ungelert, H.: Das Ende der Arbeitslosigkeit. Remningen (Witbg), 1932. 61 S.
- \*Vocationalguidance. New York, 1932. 419 p. (White House Conference on child health and protection publ. 3.)
- \*Völkerbund. International Arbeitskonferenz. 16. Tagung, Genf, 1932. Berichte des Direktors. Genf, 1932. 112 S. [Auch engl. u. franz. erschienen.]
- \*Weber, P.: Das Kassenarztrecht in der Krankenversicherung nach d. Stande d. 4. Notverordnung d. Reichspräsidenten vom 8. Dez. 1931, d. Ausführungs- u. Überleitungsbestimmungen u. d. Verordnung d. Reichsarbeitsministers vom 14. Jan. 1932. Stuttgart, 1932. 88 S.
- \*Wilson, R. S.: Community planning for homeless men and boys; the experience of sixteen cities in the winter of 1930-31. New York, 1931. 158 p.
- Brady, R. A.: The meaning of rationalization.: An analysis of the literature. (Quart. J. of Econ. 46-3. 526-540. May, 1932.)
- Klotz, W.: Der Zeitpunkt der unbilligen Härte. (Arbeitsrecht 19, 5. 283-288. Mai, 1932)
- Lange, W.: Nochmals: Die Beweislastverteilung beim befristeten Arbeitshältnis. (Arbeitsrecht. 19, 5. 287-292. Mai, 1932)
- Pöthoff, H.: S. Ständestaat, Demokratie, Arbeitsrecht. (Arbeits-

recht. 19, 5. 257-276. Mai, 1932.)  
 Schrenning, G. T.: Dismisal legislation. (Amer. Econ. Rev. 22, 2. 241-260 June, 1932.)  
 Summers, H. R.: A comparison of the rates of earning of large-scale and small-scale industries. (Quart. Jl. of Econ. 46, 3. 465-479. May, 1932.)  
 Zell: Grundsätzliches über die Absetzung von Betriebsratsmitgliedern. (Arbeitsrecht. 19, 5. 275-284. Mai, 1932.)

〔統計〕

\*砂糖年鑑(昭和七年版) 四六判 日本砂糖協會  
 統計比率と就ス(經濟論叢、三五卷一號、昭和七・七、七五—八五頁) 嵯川 虎三  
 物價指數に於ける構成的抽象性の検討(一)(同志社論叢、三八號、昭和七・六、二四—四五頁) 宗藤 圭三  
 \*Imperi, U.: L'organizzazione statistica presso le casse di malattia. Istruzioni per la compilazione delle statistiche e nomenclature dei prestatori d'opera, delle aziende e delle malattie. Trieste. 1930. 205 S.  
 \*Mortara, G.: Sommario di statistica. Milano, 1930. 206 S.  
 \*Woods, H. M., & W. T. Russel: An introduction to medical statistics. London, 1931. 125 S.

前號

(第二十六卷)

目次

- ◎短期清算取引の解剖と其の批判 向井 鹿松
- ◎日本におけるワグンシステムの概観 加田 哲三
- ◎ゴアギルベールの「富の本質論」  
——フレイシオンラアト談話の山所再吟味—— 下田 博
- ◎社債の平等擔保は就て 佐々木曉秀
- ◎G. H. Bousquet: Les Bases du Systeme Economique. Paris, 1932. 小高 泰雄
- ◎最近經濟文獻

●一冊定價 金五拾錢 郵税 金壹錢五厘  
 ●半年分 金貳圓九拾錢  
 ●一年分 金五圓四拾錢 郵税 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
 ●營業に關する用件は發賣元宛  
 ●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和七年七月三十日印刷納本  
 昭和七年八月一日發行 每月一回一日發行

三田 編輯者 江田 範保  
 東京市芝區三田三丁目三番地慶應義塾内  
 轉 發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
 會 印刷者 金子 鐵五郎  
 雜誌 印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
 載 號八第 印刷所 金子 活版所

發賣元 丸善株式會社三田出張所  
 東京市芝區三田三丁目三番地慶應義塾内

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す  
 電話高輪一九三六番

發行所 理財學會